

ホンジュラス共和国 算数指導力向上プロジェクト 中間評価調査報告書

平成 16 年 12 月
(2004 年)

独立行政法人 国際協力機構
人間開発部

人 間
JR
04-23

**ホンジュラス共和国
算数指導力向上プロジェクト
中間評価調査報告書**

平成 16 年 12 月
(2004 年)

独立行政法人 国際協力機構
人間開発部

序 文

ホンジュラス共和国は、現在「2015年までに、男女全ての就学年齢児について6年間の初等教育の完全普及と修了を達成する」という目標の下、様々な取り組みを行っています。また、教育開発上の主要課題としては、高い中退率と留年率に表される初等教育課程の修了率の低さを挙げています。そのため、同国政府は、最も留年率の高い教科の一つである算数教育の強化に係る技術協力プロジェクトを我が国に要請してきました。これを受けて当機構は2003年4月より「算数指導力向上プロジェクト」を開始することとなりました。

今般、3年間の協力期間の折り返し地点を迎えたことから、これまでの活動の実績及び進捗を振り返り、今後の活動計画について協議するため、ホンジュラス共和国へ2004年8月22日から2004年9月9日までの日程で中間評価調査団が派遣されました。中間評価の結果、プロジェクトは、両国の緊密な連携と不断の努力により一年半の間に順調に進捗し、着実に成果を上げていることが確認されました。また、プロジェクトを取り巻く環境の変化により、ホンジュラス共和国におけるプロジェクトの重要性はこれまで以上に増し、各方面から大きな期待が寄せられていることも明らかになりました。

本報告書は、同調査団の調査・評価結果を取りまとめたもので、今後のプロジェクトの展開に広く活用されることを願うものであります。

ここに、本調査にご協力いただいた内外関係各機関の方々に深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第であります。

平成16年12月

独立行政法人国際協力機構
人間開発部
部長 末森 満

目 次

序 文

目 次

略語表

地 図

写 真

評価調査結果要約表

第1章 運営指導（中間評価）調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査方法	1
1-3 調査団の構成	1
1-4 調査日程	2
1-5 主要面談者	3
第2章 要 約	4
2-1 要 約	4
2-2 PDM改訂	5
第3章 計画達成度	6
3-1 実績と現状の総括	6
3-2 投入実績	6
3-3 活動実績	7
3-4 成果達成状況	9
第4章 中間評価結果	11
4-1 評価5項目による評価	11
4-2 カウンターパート機関に対するインタビュー調査結果	14
第5章 授業評価結果	15
5-1 教師用指導書及び児童用作業帳の概要	15
5-2 教師用指導書及び児童用作業帳の問題点	16
5-3 授業評価結果	18
5-4 協力隊員活動状況	19
5-5 広域化への課題	20
第6章 実施体制について	21
6-1 実施体制とその変化	21

6-2 実施体制の変化とその対応	23
第7章 提言と教訓	25
7-1 提言	25
7-2 他国の算数分野プロジェクトへの教訓.....	26
付属資料	29
1. ミニッツ	31
2. 青年海外協力隊への質問票・回答結果	69

略 語 表

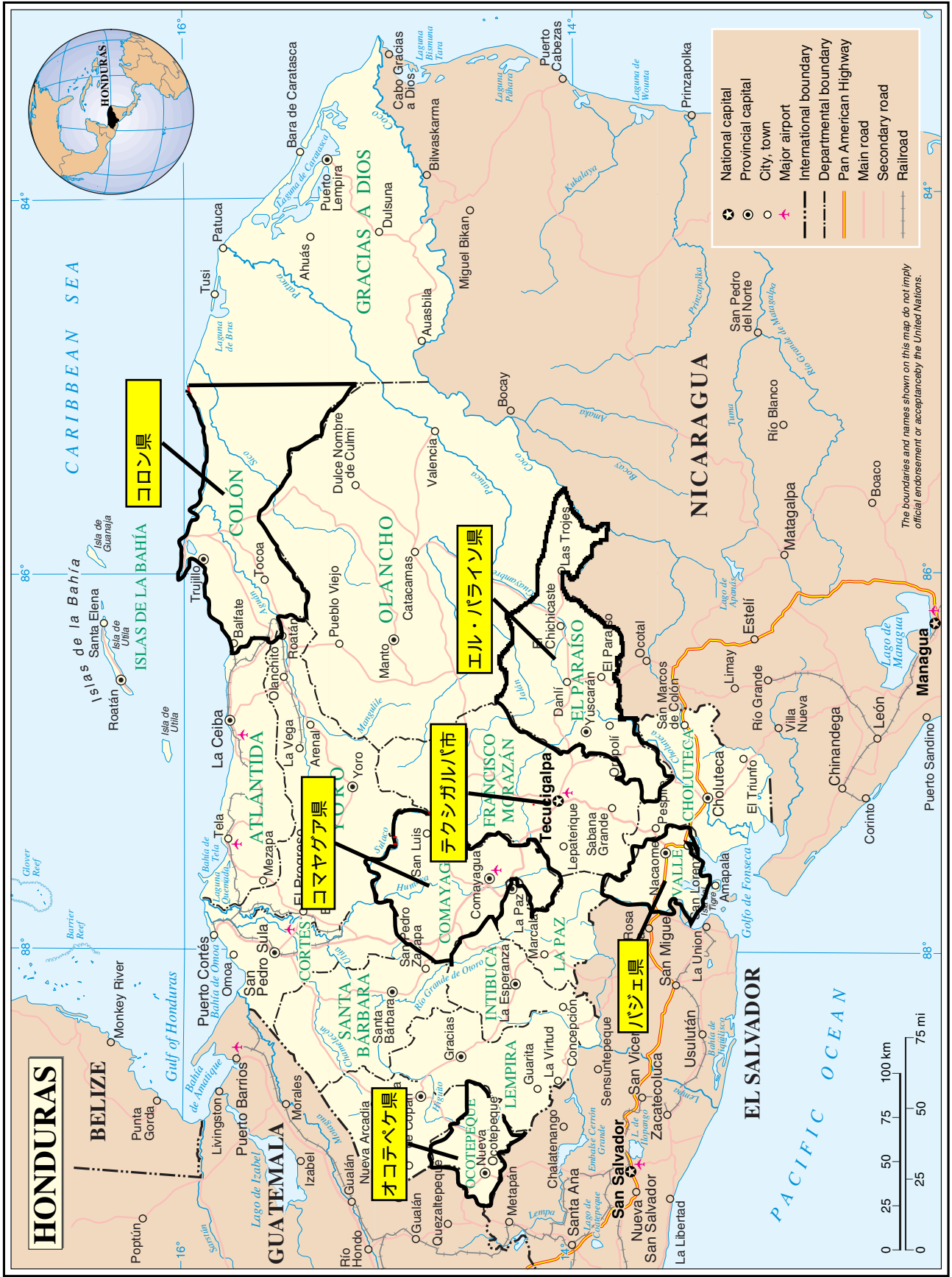
略 語	正 式 名 (日本語標記)
-----	------------------

<ホンジュラスの団体・組織等>

INICE	Instituto Nacional de Investigación y Capacitación Educativa (国立教育実践研究所)
SETCO	Secretaria Técnica de Cooperación Internacional (国際協力庁)
UPN	Universidad Pedagógica Nacional (国立教育大学)

<専門用語>

C/P	Counter Part (カウンターパート)
EFA	Education for All (万人のための教育)
FTI	Fast Track Initiative (ファスト・トラック・イニシアティブ)
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers (青年海外協力隊)
MERECE	Mesa Redonda de Cooperaciones Externas en Educación (教育セクタードナー会合)
PDM	Project Design Matrix (プロジェクト・デザイン・マトリックス)
PFC	Programa de Formación Continua (教員継続研修プログラム)
PO	Plan of Operation (活動計画表)
PRSP	Poverty Reduction Strategy Paper (貧困削減戦略ペーパー)
PROMETAM	Proyecto de Mejoramiento de Enseñanza Técnica en el Area de Matemática (算数指導力向上プロジェクト)
R/D	Record of Discussions (討議議事録)
UMCE	United Externa de Medición de la Calidad de la Educación (標準学力テスト)



Department of Peacekeeping Operations
Cartographic Section

ホンジュラス算数指導力向上プロジェクト位置図

Map No. 3856 Rev. 3 UNITED NATIONS
May 2004

写 真

ナカオメでの教材展示会(1)



ナカオメでの教材展示会(2)



ナカオメでの協力隊員による PFC 研修(1)



ナカオメでの協力隊員による PFC 研修(2)



試用版の教師用指導書及び児童用作業帳(1～6年生)



全国配布用に仕様変えを施された教師用指導書



評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ホンジュラス共和国	案件名：ホンジュラス算数指導力向上プロジェクト 中間評価調査
分野：基礎教育	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：人間開発部第1グループ 基礎教育第2チーム	協力金額（評価時点）：2.45億円
協力期間	(R/D)：2003年4月1日～ 2006年3月31日
	(延長)：
	(F/U)：
	(E/N)（無償）
	先方関係機関：教育省、国立教育大学
	日本側協力機関：筑波大学
	他の関連協力：
1-1 協力の背景と概要	
<p>ホンジュラス共和国（以下、ホンジュラス）は、現在、「2015年までに、男女すべての就学年齢児について、6年間の初等教育の完全普及と修了を達成する」という目標を掲げ、多くのドナーの支援を得て、様々な取り組みを行っている。初等教育課程の純就学率は95%（2000年）と高く男女格差もほとんど見られない一方、修了率は68.5%（2000年）、うち正規の6年間での修了率は31.9%という状況であり、中退と留年が現在のホンジュラスにおける教育開発上の主要課題である。</p> <p>ホンジュラスにおける留年の主な原因はスペイン語と算数の成績不振であり、また、現職教員の資質が低いことが問題として挙げられていることから、日本政府はホンジュラスに対し、1989年から13年間にわたり算数分野の青年海外協力隊（以下、協力隊）を派遣し、現職教員研修のための協力を実施してきた。こうした実績が評価され、算数の教員継続研修の改善・実施、算数科国定教科書準拠の教師用指導書、児童用作業帳の作成、児童用標準学力テストを使用した教育評価方法の整備を行う技術協力プロジェクトが要請され、2003年4月から「算数指導力向上プロジェクト」（Proyecto de Mejoramiento de Enseñanza Técnica en el Área de Matemática：通称 PROMETAM）が開始された。</p> <p>現在3年間のプロジェクト期間の折り返し地点を迎えていることから、これまでの実績及び進捗をレビューし、今後の活動計画について協議するため、中間評価調査団が派遣された。</p>	
1-2 協力内容	
(1) 上位目標	
プロジェクトの成果が普及し、対象5県以外でも初等教育において教員の算数指導力が向上する。	

(2) プロジェクト目標

指導書などの活用により、対象5県における初等教育の第1課程（1-3学年）と第2課程（4-6学年）の現職教員の算数指導力が向上する。

(3) 成果

- 1) 初等教育における算数教師用指導書が開発される。
- 2) 初等教育における算数児童用作業帳が開発される。
- 3) 5県において研修を受けた教員が算数国定教科書教師用指導書に沿った授業を行なえるようになる。
- 4) 上記1-3の活動を通じカウンターパートの能力が向上する。

(4) 投入（評価時点）

日本側：

長期専門家派遣	2名	機材供与	14,834,500円
短期専門家派遣	4名	ローカルコスト負担	19,800,000円
研修員受入	20名		
青年海外協力隊員派遣	36名	シニア海外ボランティア派遣	1名

相手国側：

カウンターパート配置	28名
土地・施設提供（事務室5部屋、倉庫2部屋、国立教育大学内に事務所1部屋）	
ローカルコスト負担	現地通貨 624,785 レンピーラ
	（1米ドル = 約18レンピーラ、評価時点現在）

2. 評価調査団の概要

調査者	（担当分野：氏名 職位）	
	団 長：小川 正純 JICA 人間開発部第1グループ基礎教育第2チーム	
	教育評価：磯田 正美 筑波大学 教育開発国際協力研究センター	
	教育計画：村田 敏雄 JICA 人間開発部 課題アドバイザー（国際協力専門員）	
	協力企画：小林 英里子 人間開発部第1グループ基礎教育第2チーム	
	評価分析：本家 正彦 （株）地域計画連合	
調査期間	2004年8月22日～2004年9月9日	評価種類：中間評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

プロジェクト開始から中間評価までの間に、政権交代による新国家カリキュラム準拠という政府の教科書作成方針の変更に伴う教師用指導書と児童用作業帳の内容変更及び約 1 ヶ月間に及ぶ教員待遇改善を訴える全国レベルの教員ストライキなど、プロジェクトの進捗状況に大きく影響を与える事態が発生した。これらの政治的な影響にもかかわらず、プロジェクト側の努力により、2004 年 8 月までに 1 学年～6 学年用教師用指導書（試案）及び児童用作業帳（試案）の作成を完了するなど、おおむね当初計画どおりの実績を達成していることが確認できた。

研修を受けた教員の教授法の変化に関しては、協力隊員による授業モニタリングの結果から、プロジェクト研修受講者グループはそれ以外の未受講者グループよりも授業において教材を使用する時間が多くなっていることが分かった。

上記活動を通じた C/P の能力向上に関しては、プロジェクト専門家により現在までに 54 人のコア・トレーナーが育成されており、現職教員研修プログラム（Programa de Formacion Continua：通称 PFC 研修）を含む教師教育の場で研修を実施している。

3-2 評価結果の要約

（1）妥当性：非常に高い

本プロジェクトのプロジェクト目標は、ホンジュラスの国家政策の重点事項である「算数教育分野の人的資源開発」及びホンジュラス教育政策「2015 年までに男女の学齢児童に対して（等しく）6 年間の初等教育への完全就学と修了を達成する」に合致している。

また、ホンジュラスの初等教育開発上の主要課題である児童の留年の主な原因は、スペイン語（国語）と算数の成績不振であること、現職教員の資質の低さが根本問題であることから、本プロジェクトはターゲットグループのニーズに合致している。

（2）有効性：良い

プロジェクト目標の達成状況については具体的データが少ないために明言できないが、研修に参加した教員の評判は非常に良く、モニタリング結果によると、授業において教材を活用する教員数が増加していることから、プロジェクト目標が達成される見通しは十分にある。

（3）効率性：非常に良い

日本及びホンジュラス側の投入は、おおむね適切な時期に効率的に行われており、コスト削減及びノウハウの移転のため、現地コンサルタントの利用など現地リソースが効率的に活用されている。一方、予期せぬ 1 学年～3 学年用教材の改訂作業が発生したために、短期専門家 1 名とローカルコンサルタントの雇用を行ったほか、協力隊員との連携強化のためにシニア隊員 1 名を追加派遣した。

(4) インパクト：大きい

新規教員養成及び現職教員研修にプロジェクトの教師用指導書及び児童用作業帳の採用を決定し、2005年から国定教材として全国配布を決定していること、7学年～9学年用教師用指導書と児童用作業帳についても PROMETAM 方式での作成を行うことが決定されたことから、本プロジェクトのホンジュラス算数教育に対するインパクトは非常に大きいと言える。

他ドナーも本プロジェクトに高い関心を示しており、カナダによる教材印刷・全国配布への資金供与等の支援が予定されている他、スペインよりインストラクターの指導要請を受けたり、日本一チリ・パートナーシップ・プログラムにおいて開催されている地域算数教育セミナーにおいて、専門家が PROMETAM 手法を紹介するなどの活動も行っている。更に、中南米諸国の幾つかの国ではプロジェクトの成果に高い関心を寄せており、本プロジェクトを核とした広域算数教育協力が計画されている。

(5) 自立発展性：非常に高い

教育省は新規教員養成及び現職教員研修にプロジェクトの教師用指導書及び児童用作業帳の採用を決定し、2005年から国定教材として全国配布を決定していること、プロジェクトにおいてホンジュラス人材の研修実施能力及び教材作成能力を育成していることから、自立発展性が確保される見込みは高い。一方、教材の全国配布にかかる 2006 年以降の予算手当ては明確ではないことから、継続的な予算確保に向けた検討が急務となっている。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

本プロジェクト開始前 13 年間にわたって協力隊による現職教員研修派遣が行われてきたが、この研修は教育省の公式な制度として正式に認可されたものではなかったため、研修受講者のインセンティブを維持することが困難であった。技術協力プロジェクト化された後は、プロジェクトで行う算数科の研修を大学の単位取得の条件とすることで、研修受講者のインセンティブを維持することに成功した。

(2) 実施プロセスに関すること

ホンジュラスをはじめ多くの中南米諸国では、数年毎に政権交代が起こり、それに伴って教育省の人員も配置換えとなってしまふ。このため、C/P が教育省関係者だけである場合、プロジェクトの成果が政権交代によって失われてしまうこととなる。本プロジェクトでは、教育省のみならず教育大学とも連携することにより、そのリスクを回避するとともに、教育大学の研究者の知見をプロジェクトに活用することが可能となった。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

プロジェクト開始当初より、研修を受講した教員の学校現場におけるモニタリングは、アカデミック・ラーニング・タイム法（教員の教室活動を定量的に測定する評価手法）により、協力隊員が実施していた。しかしながら、業務負担の増大や定性的な授業評価の必要性の高まりから、モニタリング手法及び体制の見直しを行うこととなったため、現在はプロジェクト活動としてのモニタリングは計画的に行われてはいない。教師用指導書と児童用作業帳の改訂及び PFC 研修後の授業評価実施のためには、現場での効果の発現を正確に測定することが必要であることから、授業評価手法の確立と実施体制の整備が急務である。

(2) 実施プロセスに関すること

- 1) 算数科カリキュラムの改訂に伴い教科書が廃止された。プロジェクト開発の教師用指導書と児童用作業帳は教科書準拠となっているため、先に完成していた 1～3 年生向の指導書と作業帳の見直しを早急に行わなければならなくなった。これに対し、専門家 1 名がほぼ専任の形で見直し作業に取り組むこととし、プロジェクト終了時まで完成させることで教育省と調整を図った。
- 2) プロジェクト・サイトにおいては、基本的に協力隊員による活動が中心となり、今のところ PFC 研修については順調に行われている。しかしながら、研修後のフォローアップについては地区教育委員会の支援を必要とするものの、この対応が各地区によって大きく異なることが判明した。この点に関して、本調査団より教育省が今後、県／地区教育事務所を適切に指導することを提案し、ホンジュラス側と合意した。
- 3) プロジェクトにおいて協力隊員は重要な役割を担っており、教育次官をはじめホンジュラス側関係者も、専門家の活動同様、協力隊員の活動を極めて高く評価している。他方、プロジェクト内においては、当初協力隊員のマネジメントはチーフアドバイザーの業務であったが、その負担が極めて大きかったため、2003 年 11 月の時点で協力隊員マネジメント業務をチーフアドバイザー業務から外し、事務所のボランティア調整員が担当することとなった。加えて、2004 年 6 月よりプロジェクトに協力隊員マネジメント専任のシニア隊員が配属となり、現在は良好なマネジメントが行われている。

3-5 結論

本プロジェクトは、中間評価が実施されるまでの 1 年半の間に順調に進捗し、着実に成果を挙げていることが確認された。また、プロジェクトを取り巻く環境の変化により、ホンジュラスにおけ

るプロジェクトの重要性はこれまで以上に増し、教育関係者をはじめ各方面から大きな期待が寄せられている。今後は、本調査団の提言等を参考に活動を継続することにより、終了時にはプロジェクト目標を達成し、上位目標に貢献できると見込まれる。

3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

（1）授業評価活動の再開と強化

上述のとおり、現地事情に即した授業評価手法の確立と実施体制の整備が急務となっていることから、「授業評価」短期専門家の早期派遣による授業評価手法の確立と、現地人材を中心とする授業評価チームの結成による授業評価活動の再開と強化が必要である。

（2）協力隊活動支援の強化

現職教員研修の実施及び研修後のフォローアップを中心に、極めて重要な役割を担っている協力隊員に対し、派遣前の技術補完研修の実施、派遣中の個別研修機会の確保、PFC 研修マネジメント（特にモニタリング）の改善による協力隊員活動支援の強化を行うことが望ましい。

（3）カウンターパート育成機能の強化

ホンジュラス教育省は、PFC 研修とは別に国定教材の全国配布に伴う現職教員研修の全国的な実施を計画しており、中央・県・地区の各レベルのプロジェクト・カウンターパートが中心的な役割を担う人材として想定されていることから、プロジェクトにはこれまで以上にカウンターパート育成機能の強化が求められる。

（4）児童用作業帳の継続的な全国配布

2005 年からプロジェクトで作成した教師用指導書と児童用作業帳が全国配布されることが決定しているが、資金調達の難しさから中長期的な作業帳の配布計画は未定となっており、予算化を含めた児童用作業帳の継続的な全国配布計画の立案と実現が強く望まれる。また、作業帳の全国配布に関しては確実に児童の手にわたるよう、全国教材配布システムの構築が不可欠であり、教育省の早急な対応を期待したい。

3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

（1）現状を踏まえた適切かつ明快なアプローチ

ホンジュラスを含め多くの途上国においては、現職教員の研修システムが質的にも量的にも十分ではなく、特に農村部においては、教員の低い指導力が問題点として指摘されている。本プロジェ

クトでは教師が指導を行う際に手元に置いて参照できる指導書、言い換えれば教師用の「赤本」を作成するというアプローチを採ることにより、何も参照するものがないまま指導を行っているという現状を少しでも改善し、多数の教師がある程度のレベルの授業を実施できるようになることを目指した。このように、プロジェクトの対象者である教師の現状や問題点を正しく踏まえて、狙いを明確にすることは、プロジェクト・デザインを考える上で重要である。

(2) 政権交代に左右されない実施体制の構築

現地の大学や研究機関等、政権交代の影響に左右されない機関をプロジェクトに関与させることにより、成果を持続的に残す仕組みを構築することができる。

(3) C/P 及びプロジェクト対象者のインセンティブ

プロジェクトで実施する研修の制度化は一朝一夕には実現できないことであるが、対象国の現職教員研修（若しくは新規教員養成）制度を詳細に調査した上で、プロジェクトで行う研修の内容を検討し、継続性・汎用性のあるメカニズムを構築することが望ましい。

(4) 教育省アドバイザーとの連携

ホンジュラス教育省には政策アドバイザー個別専門家が派遣されており、プロジェクトと密接に連携しつつ活動を進めている。現場の状況を知ることが出来るプロジェクトの専門家と、国全体の教育の状況を把握しプロジェクトにはなかなか入ってこない情報を入手できる教育省アドバイザーという立場の専門家とが有機的に連携することで、プロジェクトの成果を最大限に発現し、国内外に対して大きな波及効果をもたらすことが可能となる。

(5) 協力隊との連携

PROMETAM では、プロジェクト・サイトでの PFC 研修の実施・モニタリングを行う協力隊員をプロジェクトのコンポーネントとして組み入れている。協力隊員が現場レベルで活動を行うことにより、教員が直面している問題を把握することができ、研修をより実践的・効果的な内容に改善するためのフィードバックを得ることができる。一方、先述のとおり、プロジェクト配属という位置づけであるがゆえに、活動に制約を受けることを不満に感じる協力隊員も中にはいる。技術協力プロジェクトとボランティアとの連携を図る場合には、ボランティアの特質をよく理解した上で、連携の方法を慎重に検討する必要があるだろう。

第1章 運営指導（中間評価）調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ホンジュラス共和国（以下、ホンジュラス）は、現在「2015年までに、男女すべての就学年齢児について、6年間の初等教育の完全普及と修了を達成する」という目標を掲げ、多くのドナーの支援を得て、様々な取り組みを行っている。初等教育課程の純就学率は95%（2000年）と高く、男女格差もほとんど見られない一方、修了率は68.5%（2000年）、うち正規の6年間での修了率は31.9%という状況であり、中退と留年が現在のホンジュラスにおける教育開発上の主要課題である。

ホンジュラスにおける留年の主な原因はスペイン語と算数の成績不振であり、また、現職教員の指導力が低さが問題として挙げられていることから、日本政府はホンジュラスに対し、1989年から13年間にわたり算数分野の協力隊を派遣し、現職教員研修のための協力を実施してきた。こうした実績が評価され、算数の教員継続研修の改善・実施、算数科国定教科書準拠の教師用指導書、児童用作業帳の作成、児童用標準学力テストを使用した教育評価方法の整備を行う技術協力プロジェクトが要請され、2003年4月から「算数指導力向上プロジェクト」（Proyecto de Mejoramiento de Enseñanza Técnica en el Area de Matemática：通称 PROMETAM）が開始された。

現在3年間のプロジェクト期間の折り返し地点を迎えていることから、これまでの実績及び進捗をレビューし、今後の活動計画について協議するため、中間評価調査団が派遣された。

1-2 調査方法

- ① R/D 及び活動計画に基づき、プロジェクトの投入実績、活動実績、計画達成度を調査・確認し、問題点を整理する。
- ② PDM を見直し、定量的な評価指標の設定について検討するとともに、必要となるデータの収集を行う。
- ③ 評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から、プロジェクトチーム、ホンジュラス側関係者とともプロジェクトの中間評価を行う。
- ④ 上記の評価結果に基づき、プロジェクト継続の妥当性について判断するとともに、プロジェクトチーム、ホンジュラス側関係機関の双方に対し必要な提言を行い、今後の活動計画について協議する。
- ⑤ 本協議結果を双方の合意事項としてミニッツに取りまとめる。

1-3 調査団の構成

		氏 名	派遣期間	所 属
1	団 長	小川 正純	8/27～9/9	JICA 人間開発部第1グループ基礎教育第2チーム
2	教育評価	磯田 正美	8/22～9/3	筑波大学 教育開発国際協力研究センター
3	教育計画	村田 敏雄	8/27～9/9	JICA 人間開発部 課題アドバイザー
4	協力企画	小林 英里子	8/27～9/9	JICA 人間開発部第1グループ基礎教育第2チーム
5	評価分析	本家 正彦	8/22～9/9	(株) 地域計画連合

1-4 調査日程

月 日	業 務
8月23日(月)	JICA ホンジュラス事務所との打合せ 専門家との協議 教育大学算数科との協議
8月24日(火)	専門家及びC/Pとの協議 教育省関係者へのインタビュー PFC 研修関係者へのインタビュー INICE 関係者へのインタビュー
8月25日(水)	協力隊員活動サイト訪問 (ダンリ及びグイノペ) 授業観察及び先生へのインタビュー (ダンリ)
8月26日(木)	専門家及びC/Pとの協議 授業観察及び先生へのインタビュー (ダンリ)
8月27日(金)	専門家及びC/Pとの協議 授業観察及び先生へのインタビュー (ダンリ)
8月28日(土)	協力隊員活動サイト訪問 (ナカオメ) 協力隊員との意見交換
8月29日(日)	調査結果中間とりまとめ、団内打合せ
8月30日(月)	JICA ホンジュラス事務所との打合せ 在ホンジュラス日本大使館表敬 教育大学表敬 専門家との協議 協力隊員との意見交換
8月31日(火)	国際協力庁表敬 教育大学の教員及び学生へのインタビュー 教育省表敬 専門家との協議
9月1日(水)	スペイン及びカナダへのインタビュー 専門家及びJICA ホンジュラス事務所との協議
9月2日(木)	ミニッツ案作成
9月3日(金)	ミニッツ案協議
9月4日(土)	合同調整員会開催準備
9月5日(日)	調査結果取りまとめ、団内打合せ
9月6日(月)	ミニッツ案協議 JICA 事務所報告
9月7日(火)	合同調整委員会 ミニッツ署名、交換 在ホンジュラス日本大使館報告

1-5 主要面談者

<ホンジュラス側>

① 教育省

Mr. Carlos Ávila Molina 大臣
Ms. Elia del Cid Andrade 次官

② 国立教育実践研究所 (INICE)

Mr. José Hernán Montúfar Chinchilla 所長

③ 教育大学

Mr. Ramón Ulises Salgado Peña 学長
Mr. Julio César Navarro PFC 研修局長

④ 国際協力庁 (SETCO)

Ms. Brenie Liliana Matute Alas 大臣
Ms. Guadalupe Hung Pacheco 次官
Ms. Casta Alicia Mejia 局長

<日本側>

① 在ホンジュラス日本国大使館

長沼 始 参事官
植松 聡 一等書記官

② プロジェクト

關谷 武司 専門家 (チーフアドバイザー)
木村 英一 専門家 (算数教育)
阿部 しおり 専門家 (教材作成)
佐藤 徹 シニア隊員 (PROMETAM 協力隊員コーディネーター)
プロジェクト配属協力隊員 20名

③ 日本人専門家

西方憲弘 個別派遣専門家 (基礎教育強化)

④ JICA ホンジュラス事務所

高野 剛 所長
富安 誠司 次長
平 知子 所員
清水 義朝 青年海外協力隊調整員
岡村 美由規 広域企画調査員

第2章 要約

2-1 要約

2003年4月に開始された本プロジェクトは、両国の緊密な連携と不断の努力により、中間評価が実施されるまでの1年半の間に順調に進捗し、着実に成果を挙げていることが確認された。また、プロジェクトを取り巻く環境の変化により、ホンジュラスにおけるプロジェクトの重要性はこれまで以上に増し、教育関係者をはじめ各方面から大きな期待が寄せられている。

具体的には、本プロジェクトで作成した教師用指導書及び児童用作業帳が国定教材として2005年より全国配布され、現職教員研修及び新規教員養成課程の教材として使用されることが2004年3月に決定されたことは、本プロジェクトがホンジュラス側から高い評価を受けていることの現われと言える。日本の協力により開発された教材が一国の国定教材として認められ、全国配布されることは画期的なことである。2005年の全国配布は「万人のための教育 (Education for All : EFA)」支援のために予算化されたカナダの資金により印刷され、各県の教育委員会まで配布されることになっているが、そのためには県レベルから確実に各学校まで配布されるためのシステムの確立が必要とされる。また、2006年以降については印刷・配布資金確保の見通しが立っていないことから、ノンプロ無償見返り資金の活用可能性の検討等も含め、両国で継続的な予算確保の目途をたてていくことも必要である。

授業評価については、現地事情を考慮した評価手法の確立が必要とされているため、短期専門家派遣により対応することを提案したい。評価の実施者として、本調査団より教育大学関係などの現地人材を中心とした授業評価チームの結成を提案したところ、ホンジュラス側からも評価の必要性が強く表明され、賛同を得ることができた。

今回ナカオメ地区において、協力隊員によるPFC研修の実施状況を視察した。それぞれの協力隊員が、受講者に分かりやすいよう手作りの教材を作成するなど、様々な工夫をしており、並々ならぬ努力の跡が見られるとともに、本プロジェクトにおける協力隊員の役割の重要性を実感した。一方、地区のPFC研修担当者が研修実施時のモニタリングをきちんと実施しているとは必ずしも言い難い状況であったため、本調査団よりホンジュラス側に対して、マネジメント強化について申し入れを行った。また、PFC研修受講者の一層の指導力向上のためには、協力隊員が各校を巡回し、フォローアップを行うことが不可欠であるが、PFC研修担当者は当該活動を実施できる状況にない。そこで、地区教育委員会がその実施を担うことになるのだが、現状は地区教育委員会によって対応が様々であり、必ずしも十分な活動が実現されてはいない。以上のような状況にかんがみ、本調査団から教育省に対して、より強力な地区教育委員会からの協力が得られるよう、その指導を要請した。

人材育成の面でも一定の成果が認められた。教材作成能力については、1学年～6学年の指導書・作業帳作成を日本人専門家と一緒にやってきたホンジュラス側人材の能力が向上し、義務教育化が決定している7学年～9学年の指導書・作業帳の開発については、ホンジュラス側でチームを結成して進める計画である。また研修能力については、現在までに54名の中核的人材が育成されており、今後プロジェクトで開発した指導書に基づく研修を継続的に普及する上での基盤づくりが確実に行われている。

また今般の調査において、教育省次官より、本プロジェクトはホンジュラスにおいて教育省と教育大学及び日本をはじめとするドナーが一体となって主体的に取り組んだ初めての事業であり、各組織間の強い連携関係が構築されたことが言及され、ホンジュラス側関係者には極めて重要な意味

を持つプロジェクトとして受け止められていることが確認された。ホンジュラス側において教育省と教育大学の連携の下に強いオーナーシップとイニシアチブが醸成されつつあること、日本のプロジェクト・ベースの協力を通じたキャパシティ・ディベロップメントの重要性が認識されている状況にかんがみ、今後もプロジェクトは順調に進捗していくことが予測される。

2-2 PDM 改訂

中間評価を機に、これまでのプロジェクトの進捗状況、達成度、今後のプロジェクトの進行を想定して、「PDM 第2版」を作成した（ミニッツを参照）。実施協議調査時に作成された PDM との違いは以下の通りである。

項目	内容
1.プロジェクト対象県の追加	PFC 研修が有料化され受講者の減少が予測されたため、一人当たりの協力隊員が担当する受講者数の調整を行った結果、バジェ (Valle) 県とコマヤグア (Comayagua) 県の2県が追加され、合計5県がプロジェクトの対象県となった。
2.日本側投入の追加	協力隊員の活動を支援するために、2004年6月よりシニア隊員（一般隊員のマネジメント担当）1名を新たに派遣した。また、隊員の技術支援のために更に1名のシニア隊員の派遣が予定されている。
3.前提条件の変更	プロジェクトをより明確に評価するため、前提条件を「教育省が教師用指導書及び作業帳の全国配布を決定した。また、同教材を利用した全国レベルの教員研修計画を有している。」と変更した。

第3章 計画達成度

3-1 実績と現状の総括

プロジェクト開始から中間評価までの間に、政権交代による新国家カリキュラム準拠という政府の教科書作成方針の変更に伴う教師用指導書と児童用作業帳の内容変更、約1ヶ月間に及ぶ教員待遇改善を訴える全国レベルの教員ストライキなど、プロジェクトの進捗状況に大きく影響を与える事態が発生した。これらの政治的な影響にもかかわらず、プロジェクト側の努力により2004年8月までに1学年～6学年用教師用指導書試案及び児童用作業帳試案の作成が完了するなど、おおむね当初計画どおりの実績を達成していることが確認できた。しかし、プロジェクトの効果をより正確に測定するために、現地事情を考慮した授業評価手法の確立が必要とされている。

3-2 投入実績

3-2-1 日本側投入

プロジェクト開始以来、中間評価までの日本側投入は以下の通りである（詳細はミニッツAnnex2、5-8、12参照）。

(1) 専門家派遣

2名の長期専門家、延べ4名の短期専門家がほぼ計画どおり派遣された。ただし、教師用指導書と児童用作業帳の改訂及びPFC研修受講後の授業評価実施のためには、現地事情を考慮した授業評価手法の確立と実施体制の整備が急務であることから、「授業評価」短期専門家の早期派遣が望まれる。

(2) 青年海外協力隊員等ボランティアの派遣

36名の青年海外協力隊員及び1名のシニア海外ボランティアがほぼ計画どおり派遣された。ただし、早期帰国隊員2名が発生しており、プロジェクトにおける協力隊員の活動を支援するために、2004年6月よりシニア隊員（一般隊員のマネジメント担当）1名が新たに派遣されている。また、隊員の技術支援のために、更に1名のシニア隊員の派遣が予定されている。

(3) 機材供与

平成15年度の実績では本邦調達2,424,500円と現地調達12,410,000円で合計14,834,500円、16年度計画1,530,000円相当額を供与（予定）している。具体的内訳は、プロジェクトに必要な資機材（車両、コンピューター関連機材など）及び研修に必要な資機材（プロジェクターなど）となっている。

(4) ローカルコスト負担

平成15年度実績で計19,800,000円、16年度計画16,317,000円相当額を支出（予定）している。当該ローカルコストは主にプロジェクト運営経常経費である。

尚、7学年～9学年用教師用指導書及び児童用作業帳の開発をホンジュラス側がチームを結成して進める計画を支援するために、追加費用US\$48,000を予定している。

(5) 研修員受入れ

算数教育 14 名、教員研修 3 名、教育管理 3 名、計 20 名がプロジェクトの進捗状況に応じて本邦研修を受けた。

3-2-2 ホンジュラス側投入

プロジェクト開始以来、中間評価までのホンジュラス側投入は以下の通りである。(詳細はミニッツ Annex2、10、12 参照)

(1) カウンターパート及び運営管理人員の配置

中央レベルでは、教育省、当省管轄機関である国立教育実践研究所 (Instituto Nacional de Investigación y Capacitación Educativa : INICE) 及び国立教育大学など、PROMETAM の実施に係るカウンターパート機関から 7 名が配置されている。県及び地区レベルでは、エル・パライス県、オコテペケ県、コロン県、バジェ県、コマヤグア県の各 5 県の県教育委員会責任者、各県内のプロジェクト対象地区の地区教育委員会責任者、PFC 地区コーディネーターなど、地方展開を図るためのカウンターパートが配置されている。ダンリ地区教育委員会会長やグイノベ地区 PFC コーディネーターのように本邦研修受講経験者が配置されている地区においては、協力隊員の活動に対する理解と支援は良好であることが確認できた。また、秘書及び運転手各 1 名など、プロジェクト運営上必要な人員が配置されている。

(2) 建物等の提供

プロジェクトに必要な建物や施設は、教育省 INICE の中に事務室 5 部屋と倉庫 2 部屋、国立教育大学内に事務所 1 部屋が提供されており、当初の計画以上の整備状況となっている。

(3) 運営費の負担

当初予算と比較して、教育省でコンピューター技術者 (グラフィックデザインなど) 雇用 3.5 ヶ月と車両 2 台の自動車保険、国立教育大学でコンピューター技術者雇用 3 ヶ月などの予定外の費用発生により、2003 年度は 624,785 レンピーラが支出された。2004 年度計画は 627,983 レンピーラとなっている (1 米ドル=約 18 レンピーラ)。

なお、7 学年～9 学年用教師用指導書及び児童用作業帳の開発チームを結成して作成を進める計画を実施するために、教育省及び国立教育大学は追加費用として計 US\$51,600 を予定している。

3-3 活動実績

PDM に基づく成果並びに活動の実績は以下のとおりである。なお、成果、その指標並びに活動の各項目の内容については PDM を、また活動実績詳細についてはミニッツ Annex2 を参照のこと。

3-3-1 成果の概要

<p>成果 1 初等教育における算数教師用指導書が開発される。</p>	<p>既存教科書準拠から新国家カリキュラム準拠にホンジュラスの方針が変更になったために、1 学年～3 学年の教師用指導書と児童用作業帳の見直しを余儀なくされているが、2004 年 8 月に当初の計画どおり 1 学年～6 学年までの指導書試案を作成することができた。</p>
--	--

成果 2 初等教育における算数児童用作業帳が開発される。	教師用指導書と同様に、作業帳もホンジュラスの方針変更による見直しを余儀なくされていたが、当初の計画どおり 1 学年～6 学年までの作業帳試案を作成することができた。
成果 3 3 県において研修を受けた教員が算数教師用指導書に沿った授業を行えるようになる。	協力隊員による授業モニタリングの結果から、プロジェクト研修受講者グループはそれ以外の未受講者グループよりも授業において教材を使用する時間が多くなっていることが分かった。プロジェクトの効果をより正確に測定するための授業評価手法の確立が必要である。
成果 4 上記 1～3 の活動を通じて C/P の能力が向上する。	プロジェクト専門家により現在までに 54 人のコア・トレーナーが育成されており、現職教員研修プログラム（PFC 研修）を含む教師教育の場で研修を実施している。

3-3-2 活動

活動実績（ミニッツ Annex2）及び活動計画（ミニッツ Annex4）を照らし合わせた結果、ホンジュラスの新国家カリキュラム準拠への方針変更や全国教員ストにもかかわらず、プロジェクトスタッフの努力により、ほぼ全ての活動がおおむね当初の計画どおり達成されつつあることが確認できた。各活動の実績と現状は以下のとおりである。

成果 1

- (1-1) 当初の計画通り 2004 年 8 月までに 1 学年～6 学年用の教師用指導書試案を作成した。
- (1-2) 1 学年～3 学年用の教師用指導書試案は算数授業において実際に利用しながら検証した。更に、教育省は他の PFC 研修において、4 学年～6 学年用教師用指導書試案を実際に使用して検証を行っている。
- (1-3) 協力隊員の授業モニタリングにより 500 件以上のデータを収集したが、未だ詳細な分析をするに至っていない。しかし定性的には、プロジェクトの PFC 研修未受講の教員グループと研修受講グループとを比較すると、研修を受講した教師グループの方がより多く教材を活用していることが観察されている。
- (1-4) 1 学年～3 学年用の教師用指導書は、授業モニタリング結果により一度改訂されているが、現在は廃止されている教科書に準拠して作成された教材であり、現行の新国家カリキュラムに準拠した教材にするために、現在改訂作業を実施している。
- (1-5) 既に 1 学年～6 学年用教師用指導書試案は作成されている。当初計画では 2004 年 9 月以降、随時完成版が作成される予定となっている。

成果 2

- (2-1) 当初の計画通り 2004 年 8 月までに 1 学年～6 学年用児童用作業帳試案を作成している。
- (2-2) 1 学年～3 学年用作業帳試案は算数授業において実際に利用しながら検証している。
- (2-3) 協力隊員の授業モニタリングにより 500 件以上のデータを収集した。しかし、未だ詳細なデータの分析は行われていない。定性的には、プロジェクトの研修を受講した教師グループでは、授業中に教材を活用している時間が、研修未受講教師グループと比

較して、より多いことが観察されている。

- (2-4) 1 学年～3 学年用作業帳は、授業モニタリング結果により一度改訂されている。しかし、作業帳は現在廃止になった教科書に準拠しているために、新国家カリキュラムに準拠したものに改訂する必要があるため、現在改訂作業を行っている。
- (2-5) 既に 1 学年～6 学年用児童用作業帳試案は作成されている。当初計画では 2004 年 9 月以降、随時完成版が作成される予定となっている。

成果 3

- (3-1) 1 学年～6 学年用 PFC 研修としての算数現職教員研修計画を作成している。
- (3-2) PFC 研修としての算数現職教員研修は、PROMETAM が開発した教師用指導書及び児童用作業帳により 1 学年～3 学年用研修を実施した。
- (3-3) プロジェクトによる PFC 研修を受講した教員の算数指導法試験は、3 学年まで行った。
- (3-4) 定量的分析であるアカデミック・ラーニング・タイム法を最初の半年間行った。現在、定性及び定量の両面から授業分析を行うことができる現地事情に適した手法を検討している。
- (3-5) アカデミック・ラーニング・タイム法を用いた協力隊員の授業モニタリングにより 500 件以上のデータを収集した。これらのデータはまだ詳細には分析されていないが、プロジェクトの PFC 研修を受講していない教員グループと比較して、プロジェクトの研修を受講した教員グループにおいては、教材をより多く活用していることが観察されている。
- (3-6) 2 学年の試験が行われている。

成果 4

- (4-1) プロジェクトは、カウンターパートと協力して教材作成を行うと同時に、県レベルで活動できる 54 名の中核教員の育成を行っている。更に、将来プロジェクトの中核人材となり得る人員に対して、20 名の本邦研修を実施している。
- (4-2) 教育省と国立教育大学は、地区教育委員会と地区 PFC コーディネーターとの間でプロジェクトの経験を相互に十分に共有しているとは言えない。

3-4 成果達成状況

上位目標、プロジェクト目標、成果の達成状況は以下の通りである。

項目	達成状況
上位目標 プロジェクトの成果が普及し、3 県以外でも初等教育において教員の算数指導力が向上する。	・現時点で、上位目標の達成状況を評価するのは時機尚早であるが、教育省が教員養成及び現職教員研修にプロジェクトの教師用指導書と児童用作業帳の利用を決定したこと、2005 年から正式教材として全国配布することを決定したことなどを勘案すると、プロジェクトは上位目標の達成に向かって進んでいると言える。
プロジェクト目標 指導書等の活用により、オコテペケ県、コロソ県、エ	・プロジェクト目標の実績を具体的なデータにより示すことは未だできていない。しかし定性的には、研修に参加した教員の評判は非

<p>ル・パライソ県における初等教育の第 1 課程（1 学年～3 学年）と第 2 課程（4 学年～6 学年）の現職教員の算数指導力が向上する。</p>	<p>常に良く、教材を利用する教員数も増加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力隊員によるアカデミック・ラーニング・タイム法の定量的分析によると、プロジェクトの研修を受講した教員グループは、研修未受講の教師グループと比較すると教材をより活用していることが観察されている。 現状では授業評価が適切に行われていないことから、早期に現地事情を考慮した授業評価手法の確立が望まれる。
<p>成果 1 初等教育における算数教師用指導書が開発される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2004 年 8 月に、当初の計画どおり 1 学年～6 学年までの教師用指導書（試案）を作成することができた。 ホンジュラスの方針が、既存の教科書準拠から新国家カリキュラム準拠に変更になったため、1 学年～3 学年の教科書の見直し作業が必要となっている。
<p>成果 2 初等教育における算数児童用作業帳が開発される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2004 年 8 月に当初の計画どおり 1 学年～6 学年までの作業帳（試案）を作成することができた。 教師用指導書と同様に、作業帳もホンジュラスの方針変更による見直し作業が必要となっている。
<p>成果 3 3 県において研修を受けた教員が算数教師用指導書に沿った授業を行えるようになる。</p>	<p>（3－1 現職教員研修の受講者数）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 学年～3 学年用現職教員研修の受講者は 224 名となっている。 <p>（3－2 現職教員研修修了者数）</p> <ul style="list-style-type: none"> 213 名の教員が修了試験で 60%以上の得点を獲得して 3 学年用研修を修了した。 <p>（3－3 現職研修修了者が行う授業評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力隊員による授業モニタリングにより 500 件以上のデータを収集したが、未だ詳細な分析は行われていない。しかし定性的には、プロジェクト研修受講者グループは研修未受講者グループと比較すると、授業において教材を使用する時間がより多くなっていることが確認されている。 プロジェクトの効果をより正確に測定するための授業評価手法の確立が必要である。
<p>成果 4 上記 1～3 の活動を通じて C/P の能力が向上する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト専門家により、現在までに 54 人のコア・トレーナーが育成されており、PFC 研修を含む教師教育の場で研修を実施している。

第4章 中間評価結果

4-1 評価5項目による評価

評価5項目の観点からプロジェクト評価を行った結果は以下の通りである。

項目	結果	概 要
妥当性	非常に高い	<p>(必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホンジュラスの初等教育開発上の主要課題は児童の中退と留年であり、留年の主な原因は、スペイン語（国語）と算数の成績不振となっている。 現職教員の指導力の低さも問題となっている。プロジェクトは教員の指導力向上を目指しておりターゲットグループのニーズに合致している。 <p>(優先度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホンジュラス政府は国家計画において算数教育分野の人的資源開発に高い優先度を付けている。 プロジェクト目標はホンジュラス教育政策「2015年までに男女の学齢児童に対して（等しく）6年間の初等教育への完全就学と修了を達成する」に合致している。 教育はJICAホンジュラス事務所、ホンジュラスODAタスクフォース、ホンジュラスPRSPの最重点分野の一つである。 <p>(手段としての適切性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 以前は教材を使用して授業を行うことが少なかったが、プロジェクトが開発した教師用指導書と児童用作業帳の活用により、授業がよりの確に行われるようになる。 プロジェクト対象3県は、事前の定性的・定量的分析により、社会的及び地理的な条件などを考慮して選択されている。今回の中間評価を機に、PFC研修が有料化され受講者の減少が予測されるため、一人あたりの協力隊員が担当する受講者数の調整を行った結果、バジェ県とコマヤグア県の2県が追加され、合計5県がプロジェクト対象県となった。 日本政府は、1989年から13年にわたり算数分野の協力隊員約60名を派遣し、現職教員研修のための協力を実施してきた。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育省は、プロジェクトで作成した教師用指導書及び児童用作業帳を国定教材として2005年より全国配布し、現職教員研修及び新規教員養成課程の教材として使用することを2004年3月に決定している。 2005年の全国配布について、EFA支援のために予算化されたカナダの資金により印刷され、県教育委員会まで配布されることになっている。 スペイン・ルイスランダプロジェクトは、プロジェクトの成果を活用した教員研修を実施している。

有効性	良い	<p>(プロジェクト目標の達成予測)</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト目標の達成状況については、具体的データが少ないために明言できないが、研修に参加した教員の評判は非常に良い。 協力隊員及びPFC研修によるモニタリング結果によると、授業において教材を活用する教員数が増加している。 プロジェクトの成果はプロジェクト目標の達成に有効である。 <p>(阻害要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2005年の教材の全国配布は各県の教育委員会まで配布されるが、軍隊の支援を予定しているものの、確実に各学校まで配布されるためのシステムは確立されていない。 2006年以降の教材の印刷・配布資金確保の見通しが未定となっている。 地区PFC研修担当者による研修実施時のモニタリングが不十分である。 <p>(因果関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2004年7月から約1ヶ月間、全国レベルでの教員ストライキが発生した結果、教材作成には影響が少なかったものの、教員研修には影響が及ぶこととなった。 プロジェクトの成果はプロジェクト目標の達成に有効である。
効率性	非常に良い	<p>(成果の達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1～6学年の教師用指導書(試案)及び児童用作業帳(試案)は当初の計画よりも早期に作成されていた。 プロジェクトは、PFC現職教員研修において、県レベルで講師を勤めることが可能な54名の中核教員の養成を行っている。 <p>(因果関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学年～3学年用教材の予期せぬ改訂作業が発生したために、短期専門家1名とローカルコンサルタントの雇用を行った。 協力隊員との連携強化のためにシニア隊員1名を派遣した。なお、協力隊員の技術支援のためにシニア隊員1名の追加派遣が予定されている。 プロジェクトリーダーである専門家1名が、業務調整と事業評価を行うことは業務量が膨大になることから、現地職員1名を追加雇用した。 協力隊員の活動が効率的になされるには地区教育委員会及び地区PFC研修担当者との連携が必要であるが、地区責任者が本邦研修受講者である場合、支援が効果的に行われていた。 <p>(タイミング)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本及びホンジュラス側の投入は、おおむね適切な時期に効率的に行われた。 <p>(コスト面)</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトのコスト削減及びノウハウの移転のため、現地コンサルタントの利用など現地リソースが効率的に活用されている。

イ ン パ ク ト	大 き い	<p>(上位目標の達成予測)</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトはホンジュラスの算数教育分野で幅広いインパクトを与えている。ホンジュラス教育省は、2005年からプロジェクトが開発した教材を国定教材として全国配布すること、教材を利用した全国教員研修を開始することを決定した。 <p>(波及効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他ドナーも本プロジェクトに高い関心を示しており、カナダ・プロメサスプログラムによる教材印刷・全国配布への資金供与等の支援が実施段階にある。 スペイン・ルイスランダプロジェクトより約 20 名のインストラクターが PROMETAM 指導法セミナー（1 学年～3 学年用）を受講しており、プロジェクト対象県以外のオランチョ県、ジョロ県及びグラシラス・アディオス県等にプロジェクト成果の普及が見込まれる。 ホンジュラス側は自ら 7 学年～9 学年用教師用指導書と児童用作業帳の作成を行うと表明し、そのための予算と実施計画を作成している。 日本一チリ・パートナーシップ・プログラムにおいて、年 1 回開催されている地域算数教育セミナーで、専門家 1 名が PROMETAM 手法を紹介する予定である。 中南米諸国の幾つかの国ではプロジェクトの成果に高い関心を寄せており、プロジェクト成果をより広く普及させる計画（案）がある。
自 立 発 展 性	非 常 に 高 い	<p>(政策・制度面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホンジュラスは「2015 年までに、男女すべての就学年齢児について、6 年間の初等教育の完全普及と修了を達成する」という方針を堅持している。また、EFA-FTI によるコモン・ファンドの活用を予定している。 教育省は新規教員養成及び現職教員研修にプロジェクトの教師用指導書及び児童用作業帳の採用を決定し、2005 年から国定教材として全国配布を決定している。 <p>(組織・財政面)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育省と国立教育大学の協力関係は非常に良い。 2005 年から教師用指導書と児童用作業帳の全国配布は決定されているが、2006 年以降の予算手当ては明確ではない。 <p>(オーナーシップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホンジュラス側は、自ら第 3 課程（7 学年～9 学年）用教師用指導書と児童用作業帳作成のためのチームを新たに結成することを決定した。 ホンジュラス側はプロジェクトの教材を国レベルで現職教員及び教員養成研修に採用することを決定している。 <p>(技術面)</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトは 1 学年～6 学年用の教師用指導書・児童用作業帳作成を通して、日本人専門家とカウンターパートが協力しながら現地教員に受容される教材開発を行っており、ホンジュラス人材の教材作成能力を育成している。 プロジェクトは県レベルで活躍できる 54 名中核指導教員を養成しており、研修能力向上に貢献している。

4-2 カウンターパート機関に対するインタビュー調査結果

地方レベルの責任者と中央レベルの実務担当者を中心に聞き取り調査を行った。要旨は以下の通りである。

C/P 機関名	要 旨
教育省 課長補佐 Mr.Ramon Rosa Ramire	プロジェクトの評価項目である妥当性、有効性、効率性は非常に良いと判断している。インパクトは、ホンジュラスの教育方針から判断して全国レベルで波及することが想定される。自立発展性に関しては、現職教員研修を支援するための国、県、地域レベルの担当部署を創設することを考えている。プロジェクトが開発した教材は、教員の指導方法を改善し児童の理解を促進している。
INICE 所長 Mr.Jose Herman Montufar	プロジェクトが開発している指導書と作業帳は新カリキュラムに準拠しており、ホンジュラスの方針との妥当性は高い。また、プロジェクトは両国の共同プロジェクトであり、ホンジュラスの方針から判断してインパクトは国レベルで波及するだろう。7 学年～9 学年用の教材が未完成のため、プロジェクトのサポートを得て作成することを希望している。
教育大学 算数学科他 Mr.Julio Navarro	プロジェクトはホンジュラスの算数教育の向上に貢献している。教員の教材に対する評価は非常に高く、教材の活用率も向上している。教材の有効利用により児童の算数への関心を高めることができている。大学では国内 18 県に 54 人の算数専門家を配置している。大学は PFC により現職教員再教育のために教材の印刷を行った。また、1 学年～4 学年までの教材の活用方法を学んだ現職教員は約 7,500 人に及んでいる。大学の算数科目の学士課程で学んでいる現職教員は約 3,200 人となっており、指導書や作業帳を使って他の教員を指導することが期待される。指導書や作業帳は教員や児童に信頼があり、そのコピーが教育現場で自主的に利用されている事実から、プロジェクトのインパクトは非常に大きい。
Danli 教育委員会 Ms.Dilma Hortensia	プロジェクトはホンジュラス内の教育分野において評価が高く、教員の指導方法を大きく改善している。また、教員や児童もプロジェクトで開発された教材や指導方法を受け入れており、児童の理解を促進している。プロジェクトのインパクトは大きく、国レベルで算数教育の向上に貢献できるだろう。
Guinope PFC 地域コーディネーター Ms.Zoila Aurora	プロジェクトはホンジュラスの教育政策である EFA に完全に一致しており、児童の算数科目の留年率の減少や修了率の向上に大きく貢献している。プロジェクト側はホンジュラス側の意見やコメントを良く理解しており、コミュニケーションは非常に良く、協力隊員の活動にも感謝している。現地教員では授業評価やモニタリングが上手くできないので今後も協力を望んでいる。

第5章 授業評価結果

5-1 教師用指導書及び児童用作業帳の概要

以下に記す教師用指導書及び児童用作業帳の内容構成に対する情報収集は、基本的に専門家に対する概要聴取により行われた。

5-1-1 完成状況

1学年～3学年分について、教育課程の改定に合わせた修正が求められているが、その分も含めた既開発分の1学年～6学年分の指導書、作業帳も合わせた分量は、以下に示す通り、莫大である。

	新指導書	新作業帳	旧指導書	旧作業帳
1年生	176 ページ	128 ページ	194 ページ	104 ページ
2年生	192 ページ	144 ページ	246 ページ	190 ページ
3年生	240 ページ	208 ページ	256 ページ	190 ページ
4年生	240 ページ	176 ページ		
5年生	192 ページ	144 ページ		
6年生	184 ページ	128 ページ		

(旧指導書は旧教科書に対して作られた。講習向けに教育課程改定に合わせて、部分改定が行われた)

内容、外見上のレイアウトなども含めて、高い完成度にある。国外でこれだけの高いレベルの仕事ができたことは、逆に言えば、専門家及びプロジェクトメンバーがその間になした仕事量は膨大であり、短期間にこれだけの成果をあげたことは、非常に高く評価すべきである。特に、短期間に少数メンバーでこれほど膨大な作業を遂行できた背後には、日本の教科書と指導書が参考図書として役立てられたことがある。その意味で、PROMETAM は日本の教育経験を生かした成果を得ている。一方で、後述するようにホンジュラスの算数の教育課程は、西欧、スペイン語圏において合理性が疑われる系統が採用されているため、指導書、作業帳作成に際しての固有の課題を抱えているが、これらに対して積極的な工夫がなされてきたことも、また確かなことである。

新年度より指導書及び作業帳が国定教材として全国配布される。作業帳は、当初、旧教科書による学習を支援する目的から必要視されたが、旧教科書が廃止された後は、その優れた完成度と、指導書と併せた利用法が認められ、作業帳そのものが教科書化された。

指導書と作業帳の完成状況から、全国配布が徹底されれば、指導法の劇的な改善が期待される。

5-1-2 内容構成

(1) 指導書の構成

日本の指導書を参考にしつつ、各単元、各時間の展開計画が以下のように作成された。

学年毎：利用法と利用例（4年～6年）、年間指導計画、教材表（1～3年）

単元毎：目標、他の単元との系統表、指導の要点、単元の時間配分、1時間毎の指導案

(2) 作業帳の構成

作業帳本文、後半に切り取り Hands on 教材

5-1-3 指導系統・内容上の特質

基本的に教材の作成は、ホンジュラスのカリキュラムに準拠して進んでいるので、系統の内容配列上の責任、定義の仕方、筆算の方法などに関わる責任は PROMETAM そのものにはない。専門家によれば、PROMETAM 指導書、作業帳構成に際しての教材の特質は以下の通りである。

(1) 1年生用教材

10の他に5のまとまりを取り上げているが、5のまとまりだけを特別扱いする五二進法は採用していない。

その意図は、数をとらえやすくし、数え続けなくても済むようにするためである。

(2) 2年生用教材

乗法では 2×3 を2(単位あたり量)の3倍(～のいくつ分)で定義する。ただし、グルーピングを重視し、単位あたり量の考え方を象徴する意図で、ウサギや三輪車、自動車などと場面限定をするなどはしていない。

特に九九をそのように定義する意図は、 2×3 を、「2<倍>バナナ3本」と説明しながら、九九表では、 2×1 、 2×2 、 $2 \times 3 \dots$ として、「2<倍>バナナ1本」「2<倍>バナナ2本」「2<倍>バナナ3本」と説明することは、「2本のバナナ1房分」「2本のバナナ2房分」「2本のバナナ3房分」と説明する日本人の目には矛盾と映ることによる。

(3) 乗法筆算

日本方式を採用している。

その意図は、ホンジュラス方式より、計算過程が一層明確であることによるという。

(4) 除法

① 2年生

除法は $6 \div 2$ を「6個2人で分ける」等分除のみを扱い、乗法の逆算として導入している。

② 3年生

除法では、包含除を改めて取り上げている。「6個を2個ずつ配る」(引き算的操作)を乗法の逆算として指導している。

(5) 4年生用教材

長除法(割り算筆算)では日本などで採用されている筆算形式を採用している。

その意図は、ホンジュラス方式より、計算の過程が明確であることによるという。

5-2 教師用指導書及び児童用作業帳の問題点

(1)～(5)にみる教材観は、基本的には、ホンジュラスの旧教科書にない考え方であり、欧米においても普及していない考え方である。以下、日本、欧米の考え方と比較した場合で、それぞれに対する問題と勧告内容を記す。

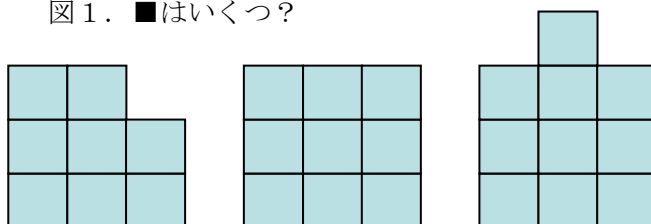
(1) 1年生用教材

10のまとまりは各国で一般に尊重される。5のまとまりを尊重するのであれば、他のまとまり、例えば、スペイン語圏では存在する2とび、3とびの数え方などへの配慮を充分にする必要がある。

<理由>

日本の教育課程では、10のまとまりのほかには、数の多面的見方が強調されている。例えば、図1は、学習の進展に応じて、数える、加える、かけるという方略で説明できる。数え方方略がそのように異なることは、計算の仕方を工夫することが、多様なグルーピング行為に依存していることを物

図1. ■はいくつ？



語っている。数の多面的な見方を強調する背景には、そのような柔軟なグルーピング行為による様々な数え方の尊重がある。逆に、うさぎの耳は2本、手の指は5本、カニの足は8本というような特定の事象のみに限定し、グルーピング抜きで乗法を指導する教材提示は、逆にそうでないものの存在を排除することとも潜在的につながりかねず、適切とは考えられない。

(2) 2年生用教材

欧州語圏で、乗法を日本式に定義することは誤りとさえ指摘することができるので、修正する必要がある。

<理由>

欧米型の定義には、辞書的にも学術的にも正統と言える根拠があり、そこで日本式の定義を採用することは、辞書的にも学術的にも誤りと指摘し得る。

実際、研究社理化学英和辞典では、time を「回、度、[pl.], 倍。例：5 times 3 5 かける 3 《5×3；英語では「5 の 3 倍」でなく「3 の 5 倍」と感じられる。x の 3 倍を 3x とする表記は英語の発想に近いと言える》。」と解説している。100 円のバナナを 5 本買えば、日本では、100×5 (100 円の 5 つ分) と考えるのが辞書的に正しいが、ホンジュラスに限らず欧米では、5×100 と表示される。スーパーのレジで出てくるレシートでさえ、5×値段と表示されるのである。すなわち、辞書的に誤った定義で学んだ生徒は、買い物ができない事態に直面することになる。

数学教育理論においても、欧米型の乗法を日本式に定義することは、誤りである。実際、乗法、比例的推論を研究する Jere Confrey は欧米型の乗法の捉え方を、splitting と読んでいる。Confrey によれば、以下のように比較し得る。

	欧米型	日本型
2×1	[o] [o]	{oo}
2×2	[oo] [oo]	{oo} {oo}
2×3	[ooo] [ooo]	{oo} {oo} {oo}
2×4	[oooo] [oooo]	{oo} {oo} {oo} {oo}

Confrey によれば、2×3 とは、2 に分けて (Splitting)、それをそれぞれ 3 に分ける (Splitting) から結果として 6 になる個数の処理を表している。日本型の乗法を類加(たしざん)とみなすことは、日本においては正しい考え方であるが、日本型が欧米型と矛盾するとしても、欧米型には学術的な根拠もあるのである。欧米型と日本型の相違は、言語表現に起源する文化的相違以外の何ものでもない。

問題の根は、欧米型からみれば誤った乗法定義を採用したホンジュラス側の教育課程にある。現実問題として、協力隊員による研修は「欧米型ではなく日本型で乗法を定義するのであるから、文

章題に対する立式も日本型にすべき」と指導されている。このような扱いは欧米の生活・文化圏においては完全なる誤りとなる。そして、欧米型の乗法は、言語表現に依存しており、世界的にみても、むしろ多数派である。

ホンジュラスの自立をめざす日本側の援助方針としては、欧米型の定義にするように教科書上の配慮において併用を認める必要がある。

(3)、(5) 筆算

乗法・除法に限らず、筆算には標準表記はなく、多様性が認められているが、教育課程においては標準化される必要があり、いずれかに徹底される必要がある。

<理由>

いかなる定義を採用すべきかは、上述の通り言語文化に依存しており、安易に変更しえるものではないし、その国の言語文化を生かす方針こそが JICA のめざす自立的成長である。数学史上では、算術の道具としての筆算は、各国の文化と政治判断に依存しており、ホンジュラス式、日本式でもいずれでもありえる。ホンジュラスでは、今回の教育課程において自国式を改め、日本式の筆算形式を採用した。結果として、過渡期である現在、講習では日本式表記を使う受講者が、実際の授業において、ホンジュラス式を採用する矛盾が発生している。保護者、世間が、日本式の筆算を知らないという背景もある。ホンジュラス側の教育課程改定に起源する問題であり、これも PROMETAM の問題ではないが、教科書が全国配布されることで、世間的には、それが PROMETAM 方式とみなされる。今後起こる混乱の修復には、全教員に対する研修の徹底と、国民に理解を求める機会が必要になる。

(4) 除法

等分除、包含除の指導の順序性はともかくも、包含除を引き算とみなすことは、正当化され、取り上げられる必要がある。

<理由>

教師自身が乗法、除法の計算ができないなどの理由から、極端に数え続ける指導が多い実態があるので、乗法の逆算として扱うことは尊重されるが、等分除と包含除はともに除法の意味としては同等であり、それぞれの意味もまた、逆算と同等に尊重すべきものである。他方で、ホンジュラスの教育課程が、等分除を2年で、包含除を3年で指導することになっており、同等に扱うようになっていない。これは世界的にみても特異な扱い方である。例えば、除法という漢字が象徴するように、割り算には、引き算（類減）とみなしえる事象（包含除）が歴然と存在する。それは漢字文化圏に限定されるものではない。世界中で包含除は割り算の意味（類減）を象徴するものとして扱われている。類減を明確に取り上げることなく割り算を指導しえるとみる考え方は、子どもの考え方や生活を尊重する立場になく、従って、自立を促す考え方ではない。

以上の問題（1）～（5）が発生した背景には、現状の学習指導を改善しようとする積極的な努力があり、それ自体は否定されるものではない。すなわち、プロジェクト側に全く否はない。

ただし、国定教科書が1種で、国民にはそれがカリキュラムとみなされる状況から、乗法、除法の指導、筆算の指導においてホンジュラスが自ら開発した教育課程に対する責任が、PROMETAM 側に添加される恐れは否めない。特に学力調査の実施に際しては設問の適切な選定が必要である。

5-3 授業評価結果

13件の授業参観を行った。結果の内訳は以下の通りである。

未研修：いずれの研修も受けていない	6件
PFC：PROMETAM以外のPFCを受けている	3件
PROMETAM：PROMETAMの研修を受けている	3件

参観内容	No.1	二位数 × 一位数	未研修
	No.2	時刻と時間	未研修
	No.3	長さ	PROMETAM
	No.4	キャンセル	
	No.5	二位数 ÷ 一位数	PFC
	No.6	包含除・等分除	PFC
	No.7	二位数 × 一位数	PFC
	No.8	立体	未研修
	No.9	円	未研修
	No.10	分数	未研修
	No.11	三位数 ÷ 一位数	PROMETAM
	No.12	分数	未研修
	No.13	二位数 ÷ 一位数	PROMETAM

いずれの場合も作業帳が配布されていないために PROMETAM がめざす授業を見ることはできていない。PFC 研修の受講者は、PROMETAM の指導書を手にしていない。

事前に用意した評価の観点に対する評定基準は、ユニバーサルな基準を想定して設定したが、現実には、そのような基準では、得点が下位に集中する結果となった。逆に、PROMETAM がどのような授業の改善をめざすのかに応じた授業評価基準の見直しが必要である。

そのような基準抜きで観察から得た印象を率直に述べれば、PROMETAM 以外の PFC 研修を受けた人と比較して、PROMETAM 研修を受けた受講生による授業では、PROMETAM 指導書による影響及び協力隊員が採用した指導法による影響の両方が確認された。

妥当性は別としても、本時の教材の展開内容を算数の系統性として吟味し、学習する順序として計画できている教師は、いずれの研修も受けていない教師で 2 名、PROMETAM でない PFC を受けている教師で 0 名、PROMETAM を受けた教師で 1 名であった。

全般的には、知識・技能伝達型の授業が目立った。PROMETAM の指導書の意図としては、生徒の考えを尊重する旨が掲げられているが、実際にはそのようにできていない実態がうかがわれた。作業帳が配布されることで、この状況の改善が期待される。

PROMETAM を受講していない教師の指導法の中で顕著な指導法としては、同じ内容を唱和しながら、場面を換えつつ 3 度、4 度と繰り返す指導であった。それを改善するためには、作業帳の全国普及が期待される。数と計算領域の授業ばかりをみたわけではないが、具体物を数えることを計算の代替として計算そのものは教えない授業は 1 件であった。

5-4 協力隊員活動状況

協力隊員は全般的に PROMETAM としての制約を受けつつも非常に優れた活動を行っている。他方で、PROMETAM の制約を快諾するものと不満に思うものがある。

また、算数科の知識に関する素養や、語学力の差も当然ながらあり、それをカバーするために、専門家による研修や自主研修などが行われている。算数分野で派遣される協力隊員は各国に多数いる。

日本から派遣する際に、派遣前の技術補完研修を別途行うことにより改善する必要がある。

協力隊員の多くは2年の任期末には語学も含めて優れた成長をとげている。特に現職隊員の一部には、1年の延長が認められれば、一層、優れた活躍をすることが期待される者もいる。今後の専門家等のリソースとしても、また、今後の後方支援のリソースとしても、協力隊員は貴重である。協力隊の派遣前技術補完研修、帰国後のフォロー等を通じて、派遣経験の活用が期待される。

5-5 広域化への課題

広域化に際して、次の点が課題となる。

(1) PROMETAM 基盤の活用

PROMETAM は現地で非常に信頼されたプロジェクトになっており、教科書教材開発、研修の両面において、高く評価されている。PROMETAM で得た信頼からすれば、広域化の成功への期待は高い。特に、広域化に際して必要な教材テキストを出版する DTP 技術は、高く評価し得る。

(2) 現地人材の育成

ホンジュラスにおいて、スペイン語圏としてみれば誤りとさえ指摘されかねない教育課程が設定されたこと自体、算数・数学教育に造詣のある現地人材が不足しているか、現地側で人材が適切に登用できていないことを物語っている。研修においても、教材開発においても、人材育成は同時進行が必要である。

(3) カウンターパート機関の育成と充実

人材育成機関及び今後の人材確保機関として、国立教育大学におけるスタッフの研修と参画は、その成果の持続可能性と自立発展を促す意味で欠かせない。

(4) 教材開発の一層の推進

誤りであるとさえ評価し得る教育課程に準拠した指導書、作業帳は、各国への広域化に際して不足する教材、修正すべき教材を多く備えている。右から左へ利用するのではなく、PROMETAM の良さを生かす前提で、各国の必要に応じて、教材を別途開発する必要がある。

(5) 広域化の推進に際して求められる算数の専門家

算数数学教育の立場からみて自明といえるホンジュラス教育課程の誤りが指摘でき、その修正方策がわかり、同様に各国の教育課程とその内容を正統に比較研究し得る、そのような力量を備えた専門家を派遣する必要がある。特に、広域化が教育課程やその内容の改定にかかわり、そのための算数の長期専門家を派遣する場合には、関わる内容それ自体やその専門分野に対して、助言をなし得る見識が求められる。必要に応じて日本国内の専門家から支援を受け、共同する体制作りも求められる。

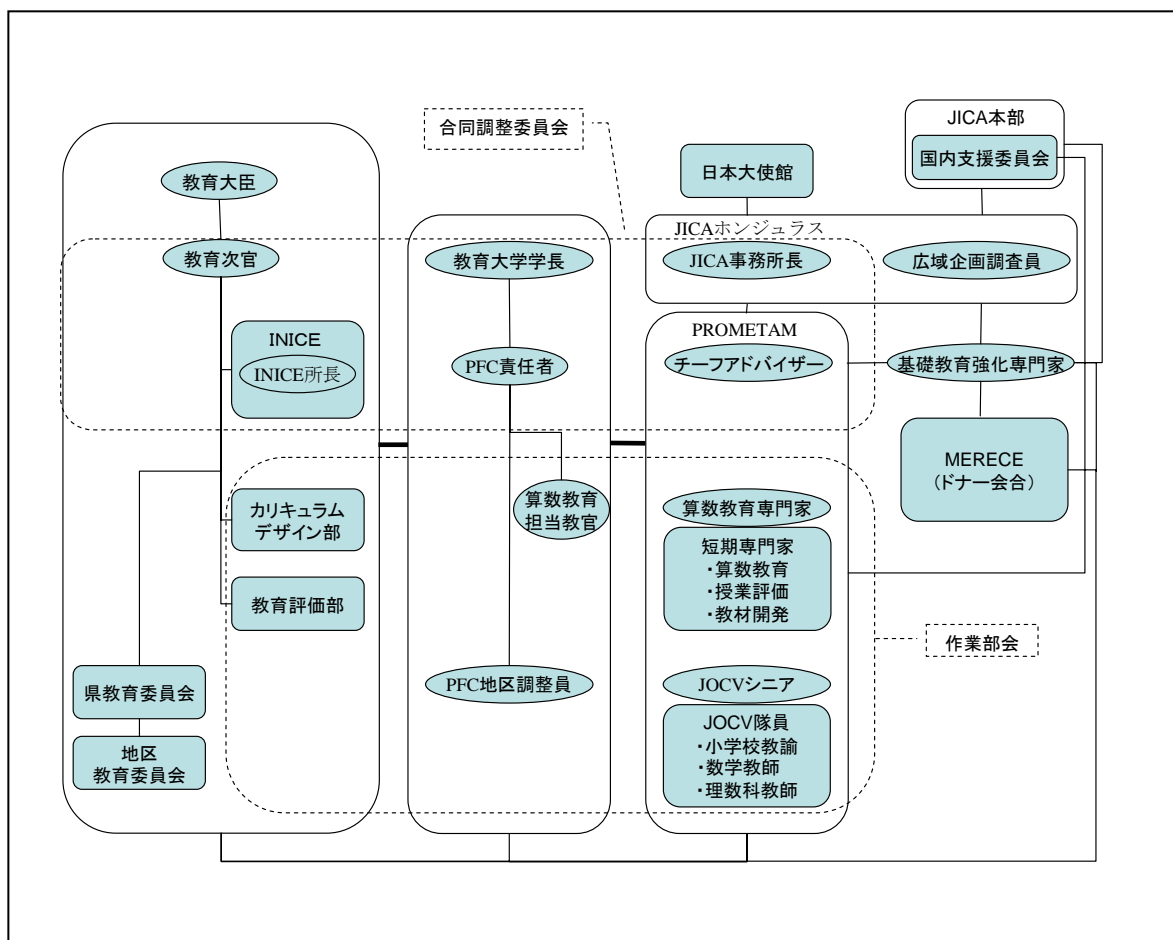
(6) 協力隊員の育成

広域化に際して、協力隊の活躍は、今後も欠かせない。プロジェクトの一部を担う形式であるかは別としても、プロジェクトの目的に協調し、それを支援し得る人材を派遣前に一括して育成することが望まれる。

第6章 実施体制について

6-1 実施体制と其の変化

現行の PROMETAM 実施体制は下図の通りであり、プロジェクト開始時（2003年4月）と中間評価時（2004年9月）で実施体制を5つの観点から比較すると下表のようになる。



図：PROMETAM の実施体制

主な特徴

- ① 教育省以外にも学術機関（教育大学）がカウンターパートとして存在している。
- ② 協力隊員が実施体制の中に明確に組み込まれている。
- ③ 政策アドバイザー型専門家がプロジェクト外部に存在し、様々な形でプロジェクトをサポートしている。

表：算数指導力向上プロジェクト（PROMETAM）実施体制の変化

	教育省	国立教育実践研究所 (INICE)	教育大学 (UPNFM)	算数指導力向上プロジェクト (PROMETAM)	
政策・方針	2003.4	<ul style="list-style-type: none"> EFA 達成に向けて初等教育中心に政策展開 専門性向上を目指し現職教員研修 (PFC) を主導 算数教育指導力向上は優先政策 算数の指導書と作業帳の全国配布計画を有するが資金調達に問題 	<ul style="list-style-type: none"> 現職教員研修担当部局として事業拡大を切望 	<ul style="list-style-type: none"> 教員養成+現職教員研修 (PFC) を担当しており、同国の教師教育分野で主導的な役割を有す 	<ul style="list-style-type: none"> 指導書+作業帳+研修により教員の算数指導力向上を目指す (プロジェクト目標) 児童の算数学力向上による留年の減少を目指す (上位目標)
	2004.9	<ul style="list-style-type: none"> 算数教科カリキュラムを改訂 7-9 年生義務教育化により、教師用指導書と生徒用作業帳を開発予定 2005 年の指導書と作業帳の全国配布に向けて準備中 2005 年より上記全国配布に関連して全国現職教員研修を計画中 INICE を中米地域の拠点とし、域内で一層の教育開発を図ろうという RED 構想を推進したい意向 	<ul style="list-style-type: none"> 2005 年からの全国現職教員研修開始に向けて準備中 	<ul style="list-style-type: none"> PFC 拡充により一層の教師教育の推進を志向 中米地域唯一の教育大学として学術機関を中心に域内イニシアティブを発揮したい意向 	<ul style="list-style-type: none"> 7-9 年生義務教育化に伴う教師用指導書と生徒用作業帳の開発を支援 広域セミナーを通じて周辺諸国との知見を一部共有
予算	2003.4	<ul style="list-style-type: none"> 予算の 96%がリカレントコストで事業予算はドナーに依存 	<ul style="list-style-type: none"> 予算は教育省から支出され、リカレントコスト中心 独自財源あるが少額 	<ul style="list-style-type: none"> 国家予算+独自予算で財務良好 	<ul style="list-style-type: none"> 省予算を見込まぬプロジェクト設計
	2004.9	<ul style="list-style-type: none"> 教員給与問題等頻発につき、国内財源による教育予算拡大が緊急課題 FTI 対象国として財政支援を中心とする各種援助が集中しており、コモンファンドを所有 援助モダリティの多様性を積極的に評価 	<ul style="list-style-type: none"> 依然として予算不足であり、教育省からの予算も遅滞 予算不足は構造的な問題であり、今後も教育省の機関として存在する限り、問題継続の可能性大 	<ul style="list-style-type: none"> 従来予算に加えて PFC 関連予算を有するなど、予算面は比較的潤沢 予算運用に関しては必要に応じて柔軟に対応 	<ul style="list-style-type: none"> 教育省、教育大学とのコストシェアリングが順調 他ドナーからの指導書・作業帳印刷費負担の申し出あり、現在教育省主導で実施中 「見返り資金」等の活用可能性大
施設・設備	2003.4	<ul style="list-style-type: none"> 政府機関として適正な設備・規模を有するが、プロジェクトの執務スペースの確保は困難 	<ul style="list-style-type: none"> 研修施設として十分な設備・規模を有するが、利用率は低い プロジェクトへ執務スペース提供 	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育機関として適切な設備・規模を有する 専門性向上のための施設・設備の一層の拡充を志向 	<ul style="list-style-type: none"> INICE に執務スペースを確保 INICE の水供給システム修理 車両、パソコン、周辺機器類
	2004.9	<ul style="list-style-type: none"> 特に変化なし 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト執務スペースの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトへ執務スペース提供 	<ul style="list-style-type: none"> 執務スペース拡大 当初計画通りの施設・設備を導入
人員管理・組織運営	2003.4	<ul style="list-style-type: none"> 人員管理に問題なし 教育技術次官が JCC のメンバー 県/地区教育委員会との緊密な連絡体制の確保必要 	<ul style="list-style-type: none"> 人員管理に問題なし 所長が JCC のメンバー 長年の協力により、日本側協力に対する理解は職員間に浸透 組織内の共有化を目指し、情報の電子データ化を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 人員管理に問題なし 学長と PFC コーディネーターが JCC のメンバー 数学科教官を PFC 研修講師に想定 児童用標準学力テスト開発部局 (UMCE) が存在 PFC 研修の実施主体 C/P 候補人材が存在 現職教員研修の実施経験あり 	<ul style="list-style-type: none"> 長期専門家 2 名、協力隊員計約 15 名が基本体制、短期専門家約 2 名/年を必要に応じて投入 協力隊員を含むチームワークが重要 長期専門家と JICA 事務所長が JCC のメンバー

	2004.9	<ul style="list-style-type: none"> ・教育技術次官の辞任に伴う C/P の交代 (調査団帰国直後に大臣交代) ・人事管理面で不安要素が多い ・7-9 年生向教師用指導書と児童用作業帳の開発チームを結成予定 ・県/地区教育委員会との連絡不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育省本省人事の影響を直接受ける立場にあり、不安要素が存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部調整の結果、数学科教官をプロジェクトに活用せず (人材の選択的活用) ・UMCE から専門家 C/P を派遣し、指導書と作業帳の開発に取り組む ・教育省と共同で7-9 年生向教師用指導書と児童用作業帳の開発チームを結成予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期専門家 2 名、短期専門家 4 名を予定通り派遣。協力隊員は総計 36 名に上る ・協力隊員マネジメント負担が大きく、シニア隊員を追加投入 ・ロジ業務軽減・効率化を目指して現地スタッフを雇用
その他	2003.4		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の無償資金協力にて設立 ・専門家チーム派遣により研究協力の実績あり 		<ul style="list-style-type: none"> ・約 12 年にわたり協力隊員 60 名が算数プロジェクトを実施 ・前長期専門家がプロジェクト基本計画を立案
	2004.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ホンジュラス側関係機関のコミュニケーションは良好で、各組織のマイナス部分を補完する形でプロジェクトが実施されている ・教育省内人事の影響が将来的にも懸念される一方、教育大学の体制は磐石 (ただし、現学長任期後は予測付加) 			<ul style="list-style-type: none"> ・現地 JICA 内コミュニケーションが不十分 ・ホンジュラス内における All-Japan としての協力体制が拡充方向

出所:「ホンジュラス共和国算数力向上プロジェクト実施協議報告書」JICA, 2003 及び同プロジェクト中間評価調査団の収集資料を基に作成

6-2 実施体制の変化とその対応

上表をみると、「施設・設備」の項目を除き、かなり大きな変化が起こっていることがわかる。「予算」については総じてプロジェクトにとってプラスの影響を与える変化だと考えられる一方、「政策・方針」と「人員管理・組織運営」に関しては大きなマイナス影響を及ぼしている変化もある。以下、それらの変化によって生じる問題点とその対応について見ていくことにする。

(1) 算数科カリキュラムの改訂

算数科カリキュラムの改訂に伴い教科書が廃止された。事前調査時に想定されていたとはいえ、プロジェクト開発の教師用指導書と児童用作業帳は教科書準拠となっているため、先に完成していた1~3年生向けの指導書と作業帳の見直しを早急に行わなければならなくなった。

プロジェクトは専門家1名がほぼ専任の形で見直し作業に取り組むこととし、プロジェクト終了時まで完成させることで教育省と調整を図った。

(2) 7 学年~9 学年の義務教育化

初等教育就学率の向上に伴って、義務教育をこれまでの6年から9年に延長すべく、教育省は着々と準備を進めている。そのため、7 学年~9 学年向けの数学科の教師用指導書と生徒用学習帳を開発する必要に迫られることになった。教育省は教育大学と共同でホンジュラス人主体の開発チームを作り、これまで日本と作業してきた経験を基に開発に着手することになり、プロジェクトに技術的アドバイスを適宜受けられるよう協力を要請してきた。

日本側で本件協力について検討した結果、現行プロジェクトが対応可能な範囲で対応することとし、ホンジュラス側と合意した。

(3) 県/地区教育委員会との連携不足

プロジェクト・サイトにおいては基本的に協力隊員による活動が中心となり、今のところ PFC

研修については順調に行われている。しかしながら、研修後のフォローアップについては地区教育委員会の支援を必要とするものの、この対応が各地区によって大きく異なることが判明した。

この点に関して、本調査団より、今後は教育省が県／地区教育事務所を適切に指導することを提案し、ホンジュラス側と合意した。

(4) 教育省側のカウンターパートの交代

主要なカウンターパートである教育次官の辞任に伴い、カウンターパートの変更が行われたが、新しくカウンターパートになった次官も PROMETAM の活動を高く評価していたことから、特に大きな混乱は生じなかった。

しかしながら、教育省人事の不安定さは依然として懸念事項であり、今後もその動向を注視していく必要がある。

(5) 国立教育実践研究所 (INICE) の脆弱さ

INICE はホンジュラス内の現職教員研修を統括・実施する重要な部署であるにも関わらず、予算面及び人員配置の面において脆弱さが見られる。教育省は 2005 年に開始予定の全国現職教員研修に向けて INICE の強化を計画しているものの、具体的な投入予定は示されておらず、今後のホンジュラス側のイニシアチブに期待したい。

なお、日本側としては国内及び中米域内拠点としての INICE の役割を重視しており、今後仮に PROMETAM フェーズ 2 が実施される場合には (現在、実施可能性を検討中)、INICE 強化を協力の柱のひとつとして組み込む必要があると思われる。

(6) 協力隊員のマネジメント

プロジェクトにおいて協力隊員は重要な役割を担っており、彼らの活動なしには今日の成果は考えられなかった。教育次官をはじめホンジュラス側関係者も、専門家の活動同様、協力隊員の活動を極めて高く評価しており、他ドナーとの協力の差別化という意味でも重要な役割を果たしている。他方、プロジェクト内においては、当初協力隊員のマネジメントはチーフアドバイザーの業務であったが、その負担が極めて大きく、兼任での「教育評価」関連活動がほとんど不可能であるような状況が続いていた。

この問題に関して、専門家は JICA ホンジュラス事務所と数度にわたる話し合いを持ち、2003 年 11 月の時点で協力隊員マネジメント業務をチーフアドバイザー業務から外し、事務所のボランティア調整員が担当することとなった。加えて、2004 年 6 月よりプロジェクトに協力隊員マネジメント専任のシニア隊員が配属となり、現在は良好なマネジメントが行われている。

以上に問題点とその対応のみを述べたが、実施体制全体を見ると比較的良好な実施体制が構築されていると判断できよう。これはチーフアドバイザーを筆頭に合同調整委員会のリーダーシップが発揮され、関係者全員が地道な努力を重ねた結果であることは言うまでもない。そして、「カウンターパートとしての教育大学の存在」と「政策アドバイザー型専門家によるプロジェクト外部での支援」が有効に機能していることも特に強調しておきたい。前者は、教育省や INICE が抱える不安要素を補うどころか、プロジェクト推進においてホンジュラス側の原動力となっており、後者はホンジュラスの教育開発の方向性に大きな影響を与えているドナー会合や中米教育大臣審議会の席上でプロジェクトを紹介し、そのプレゼンスの向上に極めて大きな役割を果たしてきたと言える。

第7章 提言と教訓

7-1 提言

(1) 授業評価活動の再開と強化

プロジェクト開始当初よりアカデミック・ラーニング・タイム法（教員の教室活動を定量的に測定する評価手法）に基づくモニタリングを実施してきた。しかし、①モニタリングを担当する各協力隊員の業務負担の増大、②定性的な授業評価の必要性の高まり、③専門家によるチーフアドバイザー業務と授業評価業務の兼任不可能といった状況を受けて、2003年11月（「研修改善」及び「教材開発」短期専門家2名の派遣時）に授業評価手法及びその実施体制を見直すこととなった。現在は、協力隊員の自由意志による学校訪問は継続されているものの、プロジェクト活動としてのモニタリングは計画的に行われてはいない。教師用指導書と児童用作業帳の改訂及びPFC研修後の授業評価実施のためには、現地事情を考慮した授業評価手法の確立と実施体制の整備が急務となっている。

このような状況を受けて、本調査団は「授業評価」短期専門家の早期派遣による授業評価手法の確立と現地人材（コンサルタントを含む）を中心とする授業評価チームの結成による授業評価活動の再開と強化を提言する。

(2) 協力隊活動支援の強化

プロジェクトにおいて、協力隊員は現職教員研修の実施及び研修後のフォローアップを中心に極めて重要な役割を担っている。その活動は各協力隊員の個人的な素養（意識・経験・技能・語学力など）、連携状況、活動の場である現職教員研修の実施状況に左右される傾向にある。

したがって、本調査団は協力隊員派遣前の技術補完研修の実施（但し、本プロジェクトへの協力隊員派遣は16年度1次隊で終了のため、今後展開される他の技術協力プロジェクトへの提言とする）、派遣中の個別研修機会の確保、PFC研修マネジメント（特にモニタリング）の改善による協力隊員活動支援の強化を提言する。

(3) カウンターパート育成機能の強化

これまでの協力を通じて、指導書・作業帳開発者（現地算数教育専門家）、県レベルのPFC研修講師、新規開設予定の初等教育課程担当の大学教官など、中央及び県レベルでのカウンターパートの育成が行われている。そして、現在、教育省は指導書・作業帳開発チームを結成し、本年より義務教育化された前期中等教育課程（7学年～9学年）の数学教師用指導書と生徒用作業帳の開発を進める計画であり、プロジェクトに技術的指導の要請がなされている。

本調査団は、ホンジュラス側のオーナーシップの高まりと指導書・作業帳開発への強いイニシアチブを高く評価するとともに、上記の指導書・作業帳開発チームに対して現行のプロジェクト実施体制で対応可能な限りにおいて技術指導を行うことが適切だと判断する。

なお、ホンジュラス側は学術的な理論に基づくカリキュラム開発及び国定教材開発ができる人材の育成が急務だと認識しているが、このような高度な専門性を有した人材育成を本プロジェクトの中で短期間に実施することは困難である。したがって、留学生制度や長期研修員受入事業を活用した人材育成など、本プロジェクトとは異なるアプローチが必要であると思われる。ちなみに、本プロジェクトに深い関わりを持つ筑波大学が既にホンジュラスからの留学生ないし長期研修員を歓迎する意向を示しており、本邦受入体制に関して特に大きな問題は生じないものと予想される。

なお、教育省は PFC 研修とは別に国定教材の全国配布に伴う現職教員研修の全国的な実施を計画しており、中央・県・地区の各レベルのプロジェクト・カウンターパートが中心的な役割を担う人材として想定されていることから、プロジェクトには今まで以上にカウンターパート育成機能の強化が求められる。

(4) 児童用作業帳の継続的な全国配布

昨年はプロジェクト予算を用いて研修参加者に教師用指導書と児童用作業帳が配布された。しかし、今年教育省による作業帳の印刷・配布が予定されていたにもかかわらず、予算確保・執行の遅れから、現在のところプロジェクト予算で手当てされた指導書の印刷・配布のみにとどまっている。そのため、学校訪問による授業評価結果によって教室レベルでの協力効果が限定的であることが確認された。協力効果の明確な発現には、作業帳の各児童による個人所有化と指導書に基づく授業実践が不可欠であり、現在、教育省は指導書と作業帳の全国配布に向けて着々と準備を進めている。

しかし、資金調達の難しさから中長期的な作業帳の配布計画は未定となっており、予算化を含めた児童用作業帳の継続的な全国配布計画の立案と実現が強く望まれる。また、作業帳の全国配布に関しては確実に児童の手にわたるよう、全国教材配布システムの構築が不可欠であり、教育省の早急な対応を期待したい。

7-2 他国の算数分野プロジェクトへの教訓

(1) 現状を踏まえた適切かつ明快なアプローチ

多くの途上国においては現職教員の研修システムが質的にも量的にも十分でなく、特に農村部においては教員の質が低いことが問題として指摘されている。ホンジュラスもその例に漏れず、公式を暗記させるだけでその裏付けとなる理論の説明がなかったり、時には誤った知識を教えたりといった教員の低い指導力が深刻な問題となっている。そこで、本プロジェクトでは教師が指導を行う際に手元に置いて参照できる指導書、言い換えれば教師用の「赤本」を作成するというアプローチを採用することにより、多数の教師がある程度のレベルの授業を実施できるようになることを目指した。指導書の内容を正しく理解し、適切に使用することが出来るためには十分な研修を受ける必要はあるものの、何も参照するものがないまま指導を行っているという現状を、少しでも改善できるという即効的な効果があるという点で、このアプローチはホンジュラスに適していると言える。このように、プロジェクトの対象者である教師の現状や問題点を正しく踏まえて、狙いを明確にすることはプロジェクト・デザインを考える上で重要である。

(2) 政権交代に左右されない実施体制の構築

ホンジュラスをはじめ多くの中南米諸国では、数年毎に政権交代が起こり、それに伴って教育省の人員も配置換えとなってしまふ。このため、C/P が教育省関係者だけである場合、プロジェクトの成果が政権交代によって失われてしまうこととなる。PROMETAM では、教育省のみならず教育大学とも連携することによりそのリスクを回避するとともに、教育大学の研究者の知見をプロジェクトに活用することが可能となっている。このように、現地の大学や研究機関等、政権交代の影響に左右されない機関をプロジェクトに関与させることにより、成果を持続的に残す仕組みを構築することができる。

(3) C/P 及びプロジェクト対象者のインセンティブ

先述のとおり、PROMETAM の開始前に 13 年間に渡って算数分野の協力隊派遣が行われてきたが、そこでの問題点の一つは研修受講者のインセンティブをどうやって維持するか、ということであった。つまり、この研修は教育省の公式な制度として正式に認可されたものではなかったため、研修を受講しなくても教員資格や給与には全く影響がなく、結果としてやる気のある教員しか参加せず、指導書や研修の成果を広く普及することが非常に困難であった。そこで、PROMETAM ではそれまでの蓄積・成果を基にプロジェクトの有効性を教育省に理解してもらい、PFC 研修において PROMETAM が行う算数科の研修を大学の単位取得の条件とすることで、研修受講者のインセンティブを維持することに成功した。プロジェクトで実施する研修の制度化は一朝一夕には実現できないことであるが、対象国の現職教員研修（若しくは新規教員養成）制度を詳細に調査した上でプロジェクトで行う研修の内容を検討し、継続性・汎用性のあるメカニズムを構築することが望ましい。

(4) 教育省アドバイザーとの連携

PROMETAM とは別に、ホンジュラス教育省にはアドバイザー専門家が個別派遣されており、プロジェクトと密接に連携しつつ活動を進めている。具体的には、プロジェクトの活動状況をドナー会合の場で報告し調整を行ったり、教育分野で活動する他ドナーの情報をプロジェクトに提供したり、他ドナーの協力が必要な事項について交渉を行ったりといった形で連携している。このように、現場の状況を知ることが出来るプロジェクトの専門家と、国全体の教育の状況を把握しプロジェクトにはなかなか入ってこない情報を入手できる教育省アドバイザーという立場の専門家とが有機的に連携することで、プロジェクトの成果を最大限に発現するとともに、国内外に対し大きな波及効果をもたらすことが可能となる。

(5) 協力隊との連携

PROMETAM では、プロジェクト・サイトでの PFC 研修の実施・モニタリングを行う協力隊員をプロジェクトのコンポーネントとして組み入れている。協力隊員が現場レベルで活動を行うことにより、教員が直面している問題を把握することができ、研修をより実践的・効果的な内容に改善するためのフィードバックを得ることができる。一方、先述のとおり、プロジェクト配属という位置づけであるがゆえに、活動に制約を受けることを不満に感じる協力隊員も中にはいる。技術協力プロジェクトとボランティアとの連携を図る場合には、ボランティアの特質をよく理解した上で、連携の方法を慎重に検討する必要がある。

付属資料

1. ミニッツ
2. 青年海外協力隊への質問票・回答結果

**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF HONDURAS
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT FOR THE IMPROVEMENT OF TEACHING METHOD IN
MATHEMATICS IN THE REPUBLIC OF HONDURAS**

The Japanese Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), headed by Mr. Masazumi Ogawa visited the Republic of Honduras from 23 August to 7 September 2004, for the purpose of the mid-term evaluation of the Project for the Improvement of Teaching Method in Mathematics in the Republic of Honduras (hereinafter referred to as "the Project").

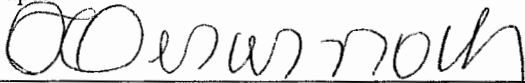
During its stay in Honduras, the Team had a series of discussions with the Honduran authorities concerned, jointly evaluated the achievement of the Project, and exchanged views for further improvement of the Project.

As a result of the study and discussions, both sides agreed to report to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Tegucigalpa, Honduras, 7 September 2004

小川 正 純

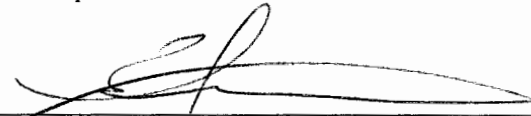
Mr. Masazumi Ogawa
Leader,
Japanese Mid-term Evaluation Team,
Japan International Cooperation Agency,
Japan



Mr. Ramon Ulises Salgado Peña
President,
Universidad Pedagógica Nacional
"Francisco Morazán",
The Republic of Honduras



Mr. Carlos Avila Molina
Secretary,
Secretariat of Education,
The Republic of Honduras



Ms. Brenie Liliara Matute Alas
Secretary,
Secretariat of International Cooperation
(SETCO)
The Republic of Honduras

CONTENTS

1. Introduction
 - 1.1. Background
 - 1.2. Objectives of Evaluation
 - 1.3. Major Activities of the Team
 - 1.4. Major Interviewees by the Team
 - 1.5. Joint Evaluation Team
 - 1.6. Method of Evaluation
2. Revision of Project Design Matrix
3. Achievement of the Project
 - 3.1. Inputs
 - 3.2. Outputs
 - 3.3. Project Purpose
 - 3.4. Overall Goal
4. Evaluation by Five Criteria
5. Conclusion
6. Recommendations

ANNEXES

- Annex 1. Project Design Matrix (Second Version)
- Annex 2. Table of Achievements
- Annex 3. Results of Evaluation
- Annex 4. Plan of Operation
- Annex 5. List of Japanese Experts
- Annex 6. PROMETAM JOCVs Assignment
- Annex 7. Major Equipment Provided by JICA
- Annex 8. List of Participants of the Training in Japan
- Annex 9. List of Teaching Materials developed by the Project
- Annex 10. List of Honduran Counterpart Personnel and Administrative Personnel
- Annex 11. Chart of Project Implementation for PROMETAM
- Annex 12. Plan of elaborating teaching materials for the 7th to 9th grades

CSN

M

JOVNY
SR

ATTACHED DOCUMENT

1. Introduction

1.1. Background

The Republic of Honduras (hereinafter referred to as "Honduras") has set itself the goal of attaining "full coverage and completion of six years of primary education for all children of school age of both sexes, by 2015," and has been tackling the problem with the support of many donor countries. The present state of primary education is that the rate of school attendance is high, at 95% (as of 2000), with hardly any difference between boys and girls. From this, it appears that children's access to school education has improved, and the spread of education has progressed.

However, the percentage of children completing their education is low, at 68.5% (as of 2000), and it can be surmised that there has not been a sufficient improvement in the quality of education. Furthermore, of those children completing primary education, only 31.9% have completed the education course in the regular six years. Dropouts and grade repeats are the most serious issues in the educational development of present-day Honduras.

The main cause of grade repeats in Honduras is poor achievement in Spanish (the official language) and mathematics. Another problem cited is the low quality of teachers. The Honduras government is working on a reform of the teacher training and retraining system on the basis of the Plan for Educational Reform, which is one of the main items of the National Reconstruction and Transformation Plan. At present, the government's Continuous Teacher Education Program (Programa de Formación Continua: PFC), started August 1998, is ongoing mainly implemented by the Universidad Pedagógica Nacional (UPN).

Over the past thirteen years the Japanese government had supported the training of teachers through the dispatch of a total of 60 Japan Overseas Cooperation Volunteers (hereinafter referred to as "JOCVs") in mathematics before the Project. These achievements have been evaluated and there has recently been a request from the Honduran government for the cooperation of Japan in mathematics, a subject with one of the highest levels of grade repeats in the PFC. The request specifically included the improvement and implementation of continuous training of teachers in mathematics, the preparation of teachers' guidebooks for the government-designated mathematics textbook (hereinafter referred to as the "guidebooks"), and workbooks for children (hereinafter referred to as the "workbooks"), and the improvement of educational evaluation methods using standard achievement tests for children.

The Record of Discussions (hereinafter referred to as "the R/D") was signed on 10 March 2003. The duration of the Project is three years from 1 April 2003.

1.2. Objectives of Evaluation

Objectives of the mid-term evaluation are (1) to review and evaluate the inputs, activities and achievements of the Project, (2) to clarify the problems and issues to be addressed for the successful implementation of the Project for the remaining period, (3) to assess the rationale for the continuation of the Project based on review and evaluation and (4) to make proposals for activities in the remaining period.

CSM

h

SED/UNAH
S

1.3. Major Activities of the Team

Date		Major Activities
23 Aug.	Monday	Meeting with JICA Honduras Office Discussion with Japanese Experts Meeting with members of Mathematic Department, Universidad Pedagógica Nacional
24	Tuesday	Meeting with Japanese Experts and Counterpart personnel Interview with the personnel of Secretariat of Education Interview with the personnel of PFC Interview with the personnel of INICE
25	Wednesday	Visit to Danli and Guinope (JOCVs' site) Interview with teachers and class observation of Selected Schools in Danli
26	Thursday	Meeting with Japanese Experts and Counterpart personnel Interview with teachers and class observation of Selected Schools in Danli
27	Friday	Meeting with Japanese Experts and Counterpart personnel Interview with teachers and class observation of Selected Schools in Danli
28	Saturday	Visit to teacher's training site at Nacaome Interview with JOCVs
29	Sunday	Meeting among Mission Members
30	Monday	Meeting with JICA Honduras Office Courtesy call on Embassy of Japan Courtesy call on Universidad Pedagógica Nacional Meeting with Japanese Experts Interview with JOCVs
31	Tuesday	Courtesy call on SETCO Interview with teachers and students of Universidad Pedagógica Nacional Courtesy call and Discussion with Secretariat of Education Meeting with Japanese Experts
1-Sept.	Wednesday	Interview with Spanish Cooperation Office and Canadian Cooperation Office Meeting with Japanese Experts and JICA Honduras Office
2	Thursday	Drafting of Minutes of Meetings
3	Friday	Drafting of Evaluation Report and Minutes of Meetings Discussion with Japanese Experts and Counterpart personnel on Minutes of Meetings
4	Saturday	Preparation for Joint Coordinating Committee(JCC)
5	Sunday	Meeting among Mission Members
6	Monday	Drafting of Evaluation Report and revising of Minutes of Meetings Report to JICA Honduras Office
7	Tuesday	Joint Coordinating Committee (Discussion on Minutes of Meetings) Signing of Minutes of Meetings Report to Embassy of Japan

CSM

CSM
[Signature]

[Signature]

1.4. Major Interviews by the Team

- (1) Secretariat of Education
 - Mr. Carlos Ávila Molina, Secretary
 - Ms. Elia del Cid Andrade, Vice Secretary
- (2) Instituto Nacional de Investigación, Capacitación y Educación (INICE)
 - Mr. José Hernán Montúfar Chinchilla, Executive Director
- (3) Universidad Pedagógica Nacional “FRANCISCO MORAZÁN” (UPN FM)
 - Mr. Ramón Ulises Salgado Peña, President
 - Mr. Julio César Navarro, General Coordinator, Programa de Formación Continua
- (4) Secretariat of International Cooperation (SETCO)
 - Ms. Brenie Liliana Matute Alas, Secretary
 - Ms. Guadalupe Hung Pacheco, Vice Secretary
 - Ms. Casta Alicia Mejia, Director
- (5) Embassy of Japan
 - Mr. Hajime Naganuma, Charge'd' Affairs ad interim
 - Mr. Satoshi Uematsu, First Secretary
- (6) JICA Honduras Office
 - Mr. Takeshi Takano, Director
 - Mr. Seiji Tomiyasu, Deputy Director
 - Ms. Tomoko Taira, Chief of Technical Cooperation
 - Mr. Yoshitomo Shimizu, JOCVs' Coordinator
 - Ms. Miyuki Okamura, Project Formulation Adviser
- (7) JICA Experts
 - Mr. Takeshi Sekiya, Chief advisor of the Project
 - Mr. Eiichi Kimura, Mathematics Pedagogy of the Project
 - Ms. Shiori Abe, Teaching Materials Development of the Project
 - Mr. Norihiro Nishikata, Basic Education
- (8) JOCVs
 - Mr. Toru Sato, Volunteer Coordinator of the Project
 - 20 JOCVs of the Project

1.5. Joint Evaluation Team

The mid-term evaluation was carried out by the joint evaluation team consisting of both Japanese and Honduran evaluators.

1.5.1. Japanese Evaluators

- Mr. Masazumi Ogawa, Team Leader
- Mr. Masami Isoda, Education Evaluation
- Mr. Toshio Murata, Education Planning
- Ms. Eriko Kobayashi, Cooperation Planning
- Mr. Masahiko Honke, Evaluation Analysis

1.5.2. Honduran Evaluators

- Ms. Elia del Cid Andrade, Vice Secretary of Secretariat of Education

Mr. Ramón Ulises Salgado Peña, President of Universidad Pedagógica Nacional

Mr. Jos Hernán Montúfar Chinchilla, Executive General Coordinator of Instituto Nacional de Investigación, Capacitación y Educación (INICE)

Mr. Julio César Navarro, Director, Programa de Formación Continua of Universidad Pedagógica Nacional

1.6. Method of Evaluation

The original Project Design Matrix (hereinafter referred to as "the PDM") jointly approved on 10 March 2003, is a guideline of the evaluation together with the plan of operation presented in the R/D of the Project. Achievement of the Project has been evaluated by the following five criteria through discussions among the joint evaluation team.

a. Relevance

Relevance of the Project plan is reviewed by the validity of the Project purpose and the overall goal in connection with the development policy of the Government of Honduras and needs of the beneficiaries and also by logical consistency of the Project plan.

b. Effectiveness

Effectiveness is assessed by evaluating to what extent the Project has achieved its purpose and clarifying the relationship between the purpose and outputs.

c. Efficiency

Efficiency of the Project implementation is analyzed with the emphasis on the relationships between outputs and inputs in terms of timing, quality and quantity.

d. Impact

Impacts of the Project are assessed in both positive and negative influences caused by the Project.

e. Sustainability

Sustainability of the Project is assessed in organizational, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievement of the Project will be sustained and expanded after the Project's completion.

2. Revision of Project Design Matrix

As a result of the mid-term evaluation, the PDM has been revised for the better implementation of the Project. Major revision of the PDM is as follows. (Annex 1)

(1) Addition of targeted departments

To adjust the number of participants of the PFC training two departments were added namely Valle and Comayagua.

(2) Addition of volunteers

To strengthen JOCVs' activities, one volunteer who is in charge of management of JOCVs was dispatched additionally and one more volunteer who is in charge of technical support for JOCVs is planned to be dispatched.

(3) Modification of Preconditions

Originally the Secretariat of Education has a plan to publish teacher's guidebooks and workbooks. As those teaching materials had been highly evaluated by the Honduran side, the Secretariat of Education decided to distribute them as official teaching materials all over the country from 2005, also to implement teacher training at national level using them.

3. Project Achievement (Annex 2)

3.1. Inputs

3.1.1. Inputs from Japanese side

The following inputs have been provided by JICA for the Project.

(1) Dispatch of Experts

To date, two long-term and four short-term Japanese experts have been dispatched as shown in Annex 5.

(2) Dispatch of JOCVs

To date, thirty-six JOCVs have been dispatched as shown in Annex 5 and one Senior Overseas Cooperation Volunteers (SV) has dispatched as shown in the following table.

Name	Number, Title of assignment	Period of assignment
Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCVs)	36 JOCVs Teachers in. the elementary school education, Mathematics teacher	For details, please refer to Annex 6
Senior Overseas Cooperation Volunteers (SV)	1 SV Teaching Material Development	4 April 2002-3 April 2004

(2) Provision of Equipment

The Japanese side has procured equipment to develop teaching materials, and vehicles, etc. amounting for 16.3 million Yen as shown in the following table. The equipment are maintained and operated properly. (Annex 7)

Unit: Japanese Yen (1US\$=110 Japanese yen)

Japanese Fiscal Year	2003	2004
Procurement from Japan	2,424,500	0
Local Procurement	12,410,000	1,530,000

(3) Local Cost Disbursement

The Japanese side has allocated and appropriated necessary budget for the activities of the Japanese experts as shown in the following table.

Unit: Japanese Yen (1US\$=110 Japanese yen)

Japanese Fiscal Year	2003	2004(estimated)
Cost for Project Implementation	19,800,000	16,317,000

(4) Counterpart Training in Japan

Twenty persons have been trained in Japan, the table describes the trainings dates. For details, please refer to Annex 8.

Subject	Number	Period of training
Mathematics Education	3 11	3 February 2004-24 February 2004 12 June 2004-6 July 2004
Teacher Training	3	12 June 2004-6 July 2004
Education Administration	3	12 June 2004-6 July 2004

CSM

Handwritten signature and initials

3.1.2. Inputs from Honduran side

The following inputs have been provided by the Honduran side.

- (1) Assignment of Counterpart Personnel
For details, please refer to Annex 10.
- (2) Provision of Building and Facilities
For details, please refer to Annex 2.
- (3) Disbursement for Running Expenses

The Honduran side has allocated and appropriated necessary budget for the Project as follows.

Unit: Lempira (1US\$=18Lempira)

	2003	2004(estimated)
Cost for the Operation of the Project	624,785	627,983

3.2. Outputs

The achievement of the outputs through the corresponding activities is measured by the indicators of the PDM. The followings are summaries of the results. For details, please refer to Annex 2.

Output 1. "To elaborate the teacher's guidebooks in mathematics for the teachers in the 1st and 2nd cycles of basic education."

Indicator: "To publish the teacher's guidebooks in mathematics"

The draft of the teacher's guidebooks for the 1st and 2nd cycles (the 1st to 6th grades) has been elaborated. In the process of elaboration, the Honduran Government had decided to abolish the official textbooks, therefore the Project has to review the guidebooks for the 1st to 3rd grades based on the new national curriculum with much effort.

Output 2. "To elaborate the workbooks in mathematics for the children in the 1st and 2nd cycles of basic education."

Indicator: "To publish the workbooks in mathematics"

The draft of the workbooks for the 1st and 2nd cycles (the 1st to 6th grades) has been elaborated. Same as the teacher's guidebooks, the Project has to review the workbooks for the 1st to 3rd grades based on the new national curriculum.

Output 3. "The teachers who receive the in-service teacher training in the three targeted departments can develop their classes according to the instruction of the teacher's guidebooks."

Indicator 3-1: "The number of teachers who finish in-service teacher training"

224 teachers attended the in-service teacher training in the 1st cycle, however the number of teachers who finish in-service teacher training was 213.

Indicator 3-2: "The number of teachers who get the score more than 60% in the test of achievement and teaching method"

A total of 213 teachers scored higher than 60% in the test of achievement and teaching method for the 1st cycle. The training for the 2nd cycle has not finished yet.

CSH

[Handwritten signature]

Indicator 3-3: “The monitor of the classes by the teachers who are in the in-service teacher training”

More than 500 data has been collected through JOCVs’ monitoring at primary schools. Those data have not been analyzed in detail yet, however, it has been observed that the teaching materials were used more in the group of the teachers who got training of the Project compared to those teachers who didn’t attend the PFC training of the Project.

Output 4. “To improve teaching capacities of the counterparts through those three processes from (1) to (3) above”

The Project has trained 54 core trainers, those who working as trainers for in-service training including PFC.

3.3. Project Purpose

The Project cannot yet describe the current achievement of the Project purpose on the basis of concrete data. However the reputation of participant teachers about the teacher’s guidebooks and workbooks is very good and the number of teachers using these teaching materials has increased. Therefore it can be said that the Project has advanced smoothly toward the achievement of the Project purpose.

3.4. Overall Goal

It is too early to measure the achievement of the Overall goal. However, the Secretariat of Education has decided to apply the teacher’s guidebooks and workbooks of the Project to pre-service and in-service teachers training and also to distribute them all over the country as official teaching materials from 2005. For that reason, it can be stated that the Project is in a direction toward the achievement of the Overall goal.

4. Evaluation by Five Criteria (Annex 3)

The points of results of the project evaluation based on the five criteria defined by Organization for Economic Cooperation and Development (OECD) are as follows. For details, please refer to Annex 3.

Criteria	Evaluation result	Basis
Relevance	Very high	- The Honduran policy of “full coverage and completion of six years of primary education for all children of school age of both sexes, by 2015,” is maintained firmly, and the Project aims to increase the enrollment rate. -Education is one of the most important sectors for JICA Honduras Office, the ODA task force in Honduras, and Honduran Poverty Reduction Strategy.
Effectiveness	Good	-The achievement of the Project purpose cannot be stated yet because of little objective data. However, reputation of participant teachers is very good and the number of the teachers using the teaching materials has increased. -The Project outputs have contributed to achieve the Project purpose effectively.
Efficiency	Very good	-The draft of the teacher’s guidebooks and workbooks for the 1 st to 6 th grades has been elaborated earlier than the initial plan. -Both Japanese and Honduran inputs have been made efficiently for the most part on good timing.

CSM

Handwritten signature and scribbles

Handwritten mark

		-To reduce the Project cost and transfer the know-how, local resources are utilized effectively.
Impact	Positive Impacts observed	The Project has made a wide-ranging impact in the mathematic education sector of Honduras. The Honduran side has made the distribution plan of the teaching materials developed by the Project, the teachers training plan at national level using them. Also donors have high interest in the Project.
Sustainability	Very high	The Secretariat of Education has decided to apply the guidebooks and workbooks of the Project to pre-service and in-service teacher training and also to distribute them as official teaching materials all over the country from 2005.

5. Conclusion

The team confirmed that the Project had been managed smoothly up to now and had a certain level of achievement based on close cooperation between Honduran and Japanese sides, and continuous efforts of the Project staffs and the persons concerned of both sides. It is observed that the linkage among the Secretariat of Education, Universidad Pedagógica Nacional, JICA, and other donors has been strengthened through the Project. Since the situation around the Project has changed on a large scale, the Project has gained more important role than before in Honduran mathematics education sector and more expectation from the educators, donors, projects of foreign countries, etc.

The Project has made a wide-ranging impact on the mathematics education sector of Honduras through the political decisions made on the distribution of the teacher's guidebooks and the workbooks for children as national teaching materials, and on the implementation of the in-service training for teachers following the distribution of the national teaching materials. The Project has trained 54 core trainers, those who working as trainers for in-service training including PFC for the development and diffusion of the teaching method developed by the Project. Therefore the positive impact of capacity development can be found in the future.

In the donor community of Honduras, Japan is recognized as a leading donor of mathematic education. While the financial support such as pooled funding and direct budget support is getting much attention in the arena of international cooperation, the Project proves the usefulness and the importance of capacity development through the project approach to the other donors and contributes to raise the presence of Japan's Official Development Assistance.

6. Recommendations

The evaluators based on a series of activities for mid-term evaluation on the Project, recommend to both Honduran and Japanese authorities concerned the following activities for the rest of the Project period with the view to achieving successful completion of the Project.

(1) Establishment and enforcement of class evaluation method

It is important to analyze improvement of teaching ability of teachers timely and sufficiently through class evaluation. For that reason, it will be necessary to dispatch a short-term expert to establish and develop the class evaluation method and to analyze mathematics classes. At the same time it is necessary to organize the evaluation team with local human resources (including local consultants) to promote the monitoring and evaluation activities.

(2) Reinforcement of support to JOCVs' activities

As JOCVs have important role in the Project, it is necessary to support them effectively as following:

CSM

Handwritten signature and initials.

Handwritten mark.

special individual training in the duration of their appointment, dispatch of a volunteer on the duty of technical support for JOCVs, improvement of PFC training course management especially by the strengthening of monitoring activities by local counterparts, among others.

(3) Strengthening of functions for capacity development

(At central level)

The Secretariat of Education has requested the Project to give a technical support on elaborating the teacher's guidebooks and workbooks in mathematics for students in the 3rd cycle which is decided to be compulsory education. The Honduran side has planned to organize a team composed of Honduran specialists (as shown in Annex 12), working together with Japanese expert team in the same office. The Japanese experts can give necessary advices to the Honduran team.

(At district level)

It is indispensable for the district education office to support JOCVs' monitoring activities for the class evaluation. Also it is necessary to improve the Honduran counterparts' teaching abilities for teachers training including PFC.

(4) Continuous distribution of the workbooks at national level

It is very important for children to have their own workbooks during classes where teaching based on the teacher's guidebook in mathematics is given. If not, the effect of teaching based on the teacher's guidebook would be reduced. For that reason, it is indispensable to distribute continuously the workbooks for all children using a new distribution system all over the country.

PDM 2nd Version: THE IMPROVEMENT OF TEACHING METHOD IN MATHEMATICS IN THE REPUBLIC OF HONDURAS

Date: 2004.9.7
 Term of Cooperation: April 1, 2003 – March 31, 2005 (3 years)
 Japanese implementing agency: JICA
 Project area: Dept. of El Paraiso, Ocotepeque, Colón, Valle and Comayagua The Republic of Honduras
 Prepared by: S.E., UPN FM, JICA Experts
 Counterpart agency: M.E., UPNFM
 Target group: Teachers in the 1st and 2nd cycles of basic education

Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicators	Means of Verifications	Important Assumptions
<p>[Super Goal] To decrease the number of repeaters for low academic achievement in mathematics in the 1st and 2nd cycles of basic education, especially in the rural area</p>	<p>1. To reduce the number of repeaters 2. Reference: To improve the achievement test for the children in mathematics in the 1st and 2nd cycles of basic education</p>	<p>1. Statistical data of Secretariat of Education 2. Results of the achievement test for the children in mathematics in the 1st and 2nd cycles of basic education (UMCE)</p>	<p>Children's absence in class does not increase.</p>	
<p>[Overall Goal] To improve the teaching method in mathematics in the 1st and 2nd cycles of basic education, in other departments than five targeted departments namely El Paraiso, Ocotepeque, Colón, Valle and Comayagua through disseminating the project results</p>	<p>To improve the results of analysis of mathematics classes</p>	<p>Analysis of mathematics classes</p>	<p>The plan of Honduran Government about the in-service teacher training is implemented successfully.</p>	
<p>[Project Purpose] To improve the teaching method in mathematics in the 1st and 2nd cycles of basic education in five targeted departments namely El Paraiso, Ocotepeque Colón, Valle and Comayagua applying the teacher's guidebooks and the workbooks</p>	<p>To improve the results of analysis of mathematics classes carried by the teachers who receive the in-service teacher training</p>	<p>Analysis of mathematics classes</p>	<p>1. There is no strike or meeting to disturb the in-service teacher training by teachers. 2. The counterparts keep their position during the Project.</p>	
<p>[Output] 1. To elaborate the teacher's guidebooks in mathematics for the teachers in the 1st and 2nd cycles of basic education 2. To elaborate the workbooks in mathematics for the children in the 1st and 2nd cycles of basic education 3. The teachers who receive the in-service teacher training in the three targeted departments can develop their classes according to the instruction of the teacher's guidebooks 4. To improve teaching capacities of the counterparts through those three processes from (1) to (3) above</p>	<p>1. To publish the teacher's guidebooks in mathematics 2. To publish the workbooks in mathematics 3-1. The number of teachers who finish the in-service teacher training 3-2. The number of teachers who get the score more than 60% in the test of achievement and teaching method 3-3. The monitor of the classes by the teachers who are in the in-service teacher training.</p>	<p>1. Dictation by Secretariat of Education 2. Dictation by Secretariat of Education 3-1. The mark of the in-service teacher training 3-2. Results of the test of achievement and teaching method 3-3. The monitor of the classes</p>		

USAID

[Activities]	[Input]	
<p>1-1 To elaborate a draft of the teacher's guidebooks in mathematics for the teachers in the 1st and 2nd cycles of basic education</p> <p>1-2 To apply and prove the draft of the teacher's guidebooks in mathematics classes</p> <p>1-3 To monitor how the draft of the teacher's guidebooks is used</p> <p>1-4 To feed back monitoring results to the teacher's guidebooks</p> <p>1-5 To complete the teacher's guidebooks</p> <p>2-1 To elaborate a draft of the workbooks in mathematics for the children in the 1st and 2nd cycles of basic education</p> <p>2-2 To apply and prove the draft of the workbooks in mathematics classes</p> <p>2-3 To monitor how the draft of the workbooks is used</p> <p>2-4 To feed back monitoring results to the workbooks</p> <p>2-5 To complete the workbooks</p> <p>3-1 To plan the in-service teacher training of mathematics for teachers in the 1st and 2nd cycles of basic education</p> <p>3-2 With the help of the workbooks and the teacher's guidebooks, the in-service teacher training in mathematics will be carried in the "Programa de Formación Continua"</p> <p>3-3 To elaborate and apply the test of achievement and teaching method in mathematics for the teachers</p> <p>3-4 To elaborate a format for the analysis of mathematics classes</p> <p>3-5 To implement the evaluation of mathematics classes</p> <p>3-6 To elaborate and apply the achievement test in mathematics for the pupils in the 1st and 2nd cycles of basic education</p> <p>4-1 To transfer know how to the counterparts through those activities from (1) to (3) above mentioned</p> <p>4-2 To share the experiences about the in-service teacher training to the person concerned through seminars</p>	<p>Japan:</p> <p>1-a Long-term Experts 1) Chief Advisor 2) Mathematics Pedagogy</p> <p>1-b Short-term Experts</p> <p>1-c Japan Overseas Cooperation Volunteers 1) Teachers in the elementary school education 2) Superior JOCVs</p> <p>2 Provision of Machinery and Equipment</p> <p>3 Training of Honduran Personnel in Japan</p> <p>4 Budget for the teacher's guidebooks and the workbooks necessary in the project</p> <p>5 Budget for local consultants</p>	<p>Honduras:</p> <p>1 Counterpart Personnel 1) INICE 2) Department of Curriculum Design 3) Department of Educational Evaluation 4) "Programa de Formación Continua" (UPN'FM) 5) Department Directions (El Paraiso, Ocotepeque, Colón, Valle and Comayagua) 6) District Directions (Danlí, Guinope, Nueva Ocotepeque, Sonaguera, Nacaome, and La Libertad) 7) Local base of "Programa de Formación Continua" 8) Other related fields mutually agreed upon as necessary</p> <p>2 Building and Facilities</p> <p>3 Adequate Budget for Running of the Project</p> <p>4 Privileges, Exemptions and Benefits for Japanese Experts and Volunteers</p>
		<p>Preconditions Secretariat of Education has a plan to distribute the teacher's guidebooks and workbooks all over the country from 2005, and also to implement in-service teacher training at national level using them.</p>

Table of Achievements

Criteria	Evaluation Items	Confirmation Items	Results
Achievement	<p>1 Overall Goal</p> <p>To improve the teaching method in mathematics in the 1st and 2nd cycles of basic education, in other departments than three targeted departments namely El Paraiso Ocoatepeque and Colón through disseminating the project results.</p>	<p>To improve the results of analysis of mathematics classes</p>	<p>It is too early to measure the achievement of the Overall Goal. However, the Secretariat of Education decided to apply the teacher's guidebooks and workbooks of the Project to pre-service and in-service teacher training and also to distribute them as official teaching materials all over the country from 2005 by utilizing the fund of Canada. For that reason it can be said that Project is t in a direction toward the achievement of the Overall Goal.</p>
	<p>2 Project Purpose</p> <p>To improve the teaching method in mathematics in the 1st and 2nd cycles of basic education, in three targeted departments namely El Paraiso Ocoatepeque and Colón, applying the teacher's guidebooks and the workbooks.</p>	<p>To improve the results of analysis of mathematics classes carried by the teachers who receive the in-service teacher training.</p>	<p>The Project cannot yet describe the current achievement of the Project purpose on the basis of concrete data. However the reputation of participant teachers is very good and the number of teachers using the teaching materials has increased, therefore it is can be said that the Project advances smoothly toward the achievement of the Project purpose. According to the quantitative class analysis by "Academic Learning Time Method" through JOCVs, it has been observed that the teaching materials were used more in the group of the teachers who got training of the Project than the other groups.</p>

CSM

Storvik

<p>3 Outputs</p> <p>1. To elaborate the teacher's guidebooks in mathematics for the 1st and 2nd cycles of basic education</p>	<p>1. To publish the teacher's guidebooks in mathematics</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="151 940 311 1276">Period</th> <th data-bbox="151 168 311 940">Achievement</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 940 311 1041">From April to Sep. 2003</td> <td data-bbox="199 168 311 940">The draft of the guidebook for the 3rd grade had been elaborated and 600 copies were printed. All drafts in the 1st cycle of basic education were modified according to the new national curriculum.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 940 391 1041">From Oct. 2003 to March 2004</td> <td data-bbox="311 168 391 940">The draft of the guidebooks for the 4th grade was elaborated and 600 copies were printed.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 940 462 1041">From April 2004 to August 2004</td> <td data-bbox="391 168 462 940">The draft of the guidebooks for the 5th grade (500 copies were printed) and 6th grade was elaborated.</td> </tr> </tbody> </table>	Period	Achievement	From April to Sep. 2003	The draft of the guidebook for the 3 rd grade had been elaborated and 600 copies were printed. All drafts in the 1 st cycle of basic education were modified according to the new national curriculum.	From Oct. 2003 to March 2004	The draft of the guidebooks for the 4 th grade was elaborated and 600 copies were printed.	From April 2004 to August 2004	The draft of the guidebooks for the 5 th grade (500 copies were printed) and 6 th grade was elaborated.
Period	Achievement									
From April to Sep. 2003	The draft of the guidebook for the 3 rd grade had been elaborated and 600 copies were printed. All drafts in the 1 st cycle of basic education were modified according to the new national curriculum.									
From Oct. 2003 to March 2004	The draft of the guidebooks for the 4 th grade was elaborated and 600 copies were printed.									
From April 2004 to August 2004	The draft of the guidebooks for the 5 th grade (500 copies were printed) and 6 th grade was elaborated.									
<p>2. To elaborate the workbooks in mathematics for the children in the 1st and 2nd cycles of basic education</p>	<p>2. To publish the workbooks in mathematics</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="518 940 630 1276">Period</th> <th data-bbox="518 168 630 940">Achievement</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="518 940 630 1041">From April to Sep. 2003</td> <td data-bbox="518 168 630 940">The draft of the workbooks for the 3rd grade had been elaborated and 4000 copies were printed. All drafts in the 1st cycle of basic education were modified according to the new national curriculum.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="630 940 710 1041">From Oct. 2003 to March 2004</td> <td data-bbox="630 168 710 940">The draft of the workbooks for the 4th grade was elaborated and 4000 copies were printed.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="710 940 782 1041">From April 2004 to August 2004</td> <td data-bbox="710 168 782 940">The draft of the workbooks for the 5th grade (500 copies were printed) and 6th grade was elaborated.</td> </tr> </tbody> </table>	Period	Achievement	From April to Sep. 2003	The draft of the workbooks for the 3 rd grade had been elaborated and 4000 copies were printed. All drafts in the 1 st cycle of basic education were modified according to the new national curriculum.	From Oct. 2003 to March 2004	The draft of the workbooks for the 4 th grade was elaborated and 4000 copies were printed.	From April 2004 to August 2004	The draft of the workbooks for the 5 th grade (500 copies were printed) and 6 th grade was elaborated.
Period	Achievement									
From April to Sep. 2003	The draft of the workbooks for the 3 rd grade had been elaborated and 4000 copies were printed. All drafts in the 1 st cycle of basic education were modified according to the new national curriculum.									
From Oct. 2003 to March 2004	The draft of the workbooks for the 4 th grade was elaborated and 4000 copies were printed.									
From April 2004 to August 2004	The draft of the workbooks for the 5 th grade (500 copies were printed) and 6 th grade was elaborated.									
<p>3. The teachers who receive the in-service teacher training in the three targeted departments can develop their classes according to the instruction of the teacher's guidebooks</p>	<p>3-1. The number of teachers who finish the in-service teacher training</p> <p>3-2. The number of teachers who get the score more than 60% in the test of achievement and teaching method.</p> <p>3-3. The monitor of the classes by the teachers who are in the in-service teacher training.</p>	<p>Participants of the in-service teacher training, in the departments of El Paraiso Ocotepaque and Colón.</p> <p>Achievements in this term 3-1 & 3-2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="885 940 997 1276">Period</th> <th data-bbox="885 168 997 940">Achievement</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="933 940 997 1041">From April to Sep. 2003</td> <td data-bbox="933 168 997 940">The number of teachers who finished the in-service teacher training for the 1st and 2nd grades, and also scored higher than 60% in the test of achievement and teaching method is 224. They also were present in the in-service teacher training for the 3rd grade.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="997 940 1077 1041">From Oct. 2003 to March 2004</td> <td data-bbox="997 168 1077 940">The number of teachers who finished the in-service teacher training for the 3rd grade, and also scored higher than 60% in the test of achievement and teaching method is 213.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1077 940 1157 1041">From April 2004 to August 2004</td> <td data-bbox="1077 168 1157 940">"Licenciatura" course which offers a university qualification began in July. A total of 249 are taking the training.</td> </tr> </tbody> </table>	Period	Achievement	From April to Sep. 2003	The number of teachers who finished the in-service teacher training for the 1 st and 2 nd grades, and also scored higher than 60% in the test of achievement and teaching method is 224. They also were present in the in-service teacher training for the 3 rd grade.	From Oct. 2003 to March 2004	The number of teachers who finished the in-service teacher training for the 3 rd grade, and also scored higher than 60% in the test of achievement and teaching method is 213.	From April 2004 to August 2004	"Licenciatura" course which offers a university qualification began in July. A total of 249 are taking the training.
Period	Achievement									
From April to Sep. 2003	The number of teachers who finished the in-service teacher training for the 1 st and 2 nd grades, and also scored higher than 60% in the test of achievement and teaching method is 224. They also were present in the in-service teacher training for the 3 rd grade.									
From Oct. 2003 to March 2004	The number of teachers who finished the in-service teacher training for the 3 rd grade, and also scored higher than 60% in the test of achievement and teaching method is 213.									
From April 2004 to August 2004	"Licenciatura" course which offers a university qualification began in July. A total of 249 are taking the training.									

[Handwritten signature]

[Handwritten mark]

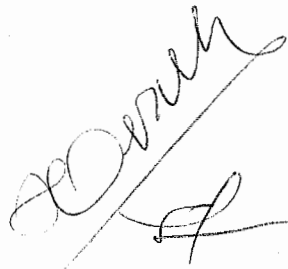
Achievement in this term 3-3		Period	Achievement
		From April to Sep. 2003	More than 500 data had been collected through JOCVs' monitoring.
		From Oct. 2003 to March 2004	It was observed that the teaching materials were used more in the group of the teachers in PROMETAM compared to those teachers who didn't attend the PFC training of the Project.
		From April 2004 to August 2004	Revision of monitoring method with which both quantitative and qualitative aspects can be measured is under consideration.
The Project has trained 54 core trainers, those who working as trainers for in-service training including PFC.			
		Period	Achievement
		From April to Sep. 2003	The professors of ex-normal schools who will work with UPN and INICE, the instructors of PFC, and the teachers of the experimental primary school of UPN participated in the seminar of PROMETAM Methodology I (For the 1 st grade) (about 25 persons)
		From Oct. 2003 to March 2004	The professors of ex-normal schools who will work with UPN and INICE, the instructors of PFC, and the teachers of the experimental primary school of UPN participated in the seminar of PROMETAM Methodology II (For the 2 nd grade)(35 persons) and III (For the 3 rd grade) (32 persons).
		From April 2004 to August 2004	The professors of ex-normal schools who will work with UPN and INICE, the instructors of PFC, and the teachers of the experimental primary school of UPN participated in the seminar of PROMETAM Methodology IV (For the 4 th grade) (48 persons). Additionally the Project carried out seminar of PROMETAM Methodology I-II-III for about 20 instructors participated from the Spanish Project "Luis Landa".
For detail, please refer to Annexes 5 and 6			
		1-a Long-term Experts 1-b Short-term Experts 1-c JOCVs	
		2 Provision of Equipment	
4. Input (Japan)	4. To improve teaching capacities of the counterparts through those three processes form (1) to (3) above	The Japanese side has procured equipment to develop teaching materials, and vehicles, etc. amounting for 16.3 million Yen as shown in the following table. The equipment are maintained and operated properly.	
		Japanese Fiscal Year	Unit: Japanese yen (1US\$=110 Japanese yen)
		2003	2004

OK

[Handwritten signature]

		Procurement from Japan Local Procurement	2,424,500 12,410,000	0 1,530,000
3 Local Cost Disbursement	The Japanese side has allocated and appropriated necessary budget for the activities of the Japanese experts as shown in the following table.	Unit: Japanese Yen (1US\$=110Japanese yen)		
4 Counterpart Training in Japan	Twenty persons were trained in Japan. For detail, please refer to Annex 8	Japanese Fiscal Year Cost for Project Implementation	2003 19,800,000	2004(estimated) 16,317,000
1 Counterpart Personnel	For detail, please refer to Annex 10			
2 Building and Facilities	Five rooms and two warehouses at INICE building and one room at Universidad Pedagógica Nacional are provided for the Project.			
3 Budget for Running the Project	The Honduran side has allocated and appropriated necessary budget for the Project as follows.	Unit: Lempira (1US\$=18Lempira)		
4 Privileges, Exemptions and Benefits for Japanese Experts and JOCVs	There is no problem in particular.	Cost for the Operation of the Project	2003 624,785	2004(estimated) 627,983
5 Preconditions	The Secretariat of Education has decided to distribute the teacher's guidebooks and workbooks of the Project as official teaching materials all over the country from 2005, and also to implement in-service teacher training at national level using them.			

2/11



Criteria	Evaluation Items	Confirmation Items	Results
Process of Activities	1 Progress of activities	1-1 To elaborate a draft of the teacher's guidebooks in mathematics for the teachers in the 1 st and 2 nd cycles of basic education 1-2 To apply and prove the draft of the teacher's guidebooks in mathematics classes 1-3 To monitor how the draft of the teacher's guidebooks is used	The draft of the teacher's guidebooks for the 1 st and 2 nd cycles (the 1 st to 6 th grade) was elaborated.
		1-4 To feed back monitoring results to the teacher's guidebooks 1-5 To complete the teacher's guidebooks	The draft of the teacher's guidebooks for the 1 st to 3 rd grades was applied and proved in mathematics classes. In addition, the Secretariat of Education itself has been applying and proving the draft of the teacher's guidebooks for the 4 th to 6 th grades in other PFC training. More than 500 data were collected through JOCVs' monitoring at primary schools. Those data have not been analyzed in detail yet, however, it has been observed that the teaching materials were used more in the group of the teachers who got training of the Project compared to those teachers who didn't attend the PFC training of the Project. At this moment, the Project is preparing to revise the teacher's guidebooks.
		2-1 To elaborate a draft of the workbooks in mathematics for the children in the 1 st and 2 nd cycles of basic education 2-2 To apply and prove the draft of the workbooks in mathematics classes 2-3 To monitor how the draft of the workbooks is used	First version of the teacher's guidebooks for the 1 st to 6 th grades was completed. The draft of the workbooks for the 1 st and 2 nd cycles (the 1 st to 6 th grades) was elaborated. The draft of the workbooks for the 1 st to 3 rd grades was applied and proved in mathematics classes. More than 500 data were collected through JOCVs' monitoring. Those data have not been analyzed in detail yet, however, it has been observed that the teaching materials were used more in the group in the Project.

UN

[Handwritten signature]

		<p>2-4 To feed back monitoring results to the workbooks.</p> <p>to the workbooks</p>	<p>At this moment, the Project is preparing to revise the workbooks.</p>
		<p>2-5 To complete the workbooks</p>	<p>First version of the workbooks for the 1st to 6th grades was completed.</p>
		<p>3-1 To plan the in-service teacher training of mathematics for teachers in the 1st and 2nd cycles of basic education</p>	<p>The in-service teacher training of mathematics as PFC training for the 1st and 2nd cycles (the 1st to 6th grades) was planned.</p>
		<p>3-2 With the help of the workbooks and the teacher's guidebooks, the in-service teacher training in mathematics will be carried in the "Programa de Formación Continua"</p>	<p>The in-service teacher training in mathematics as PFC training was carried out for the 1st to 3rd grades based on the teacher's guidebooks and workbooks of PROMETAM.</p>
		<p>3-3 To elaborate and apply the test of achievement and teaching method on mathematics for the teachers</p>	<p>The test of achievement and teaching method on mathematics for the teachers who attended to the PFC training of the Project was completed until the 3rd grade.</p>
		<p>3-4 To elaborate a format for the analysis of mathematics classes</p>	<p>The quantitative analysis method of class evaluation called "Academic Learning Time Method" had been used for the first half year. At the moment the method is being revised because it is necessary to evaluate classes from both quantitative and qualitative aspects.</p>
		<p>3-5 To implement the evaluation of mathematics classes</p>	<p>More than 500 data were collected through JOCVs' monitoring based on "Academic Learning Time Method". Those data have not been analyzed in detail yet, however, it has been observed that the teaching materials were used more in the group of the teachers who got training of the Project compared to those teachers who didn't attend the PFC training of the Project.</p>
		<p>3-6 To elaborate and apply the achievement test in mathematics for the pupils in the 1st and 2nd cycles of basic education</p>	<p>The achievement test for the 2nd grade children was carried out.</p>

[Handwritten signature]

[Handwritten mark]

	<p>4-1 To transfer know-how to the counterparts through those activities from (1) to (3) above mentioned</p> <p>4-2 To share the experiences about the in-service teacher training to the person concerned through seminars</p>	<p>The Project has made the teaching materials in cooperation with C/P, and has trained 54 core trainers at department and district level. Furthermore the training in Japan was carried out timely for those who are expected to be the core persons of the Project.</p> <p>The Secretariat of Education and Universidad Pedagógica Nacional have not shared sufficiently yet the project' experiences mutually among District Boards of Education and PFC local coordinators by the training administration.</p>
<p>2 Cooperation between Japanese experts and the counterparts</p>	<p>Communication Feedback</p>	<p>Information exchange with C/P has been done well; they hold meetings periodically for information exchange. There are Commission for the Development of Teaching Materials, Commission of in-service Teachers Training and the Implementing Committee. Joint Coordinating Committee is held more than once a year.</p> <p>The Project has developed the teaching materials in cooperation with C/P.</p>
<p>3 Cooperation between Japanese experts and JOCVs</p>	<p>Communication Feedback</p>	<p>Information exchange between experts and JOCVs has been done relatively well; they hold preparation and lap-up meeting for PFC training to have the common understanding on the method of training.</p>
<p>4 Ownership of counterpart organizations</p>	<p>Participation Budget Allocation Assignment of counterparts</p>	<p>The Secretary of Education has made a plan to utilize the Project's outputs: implementing teacher training based on teaching method of the Project all over the country, developing teaching materials for the 7th to 9th grades by their initiative.</p>
<p>5 Constraining and promoting factors</p>		<p>The strike of teachers happened all over the country, since June to July 2004 about one month and some enforcement of the training was delayed.</p>

11/10

[Handwritten signature]

Results of Evaluation (Evaluated by Five Criteria)

Annex 3

Relevance	Evaluation Item		Confirmation Items	Results
	Item	Sub-Item		
Necessity	Consistency between the Project purpose and the Honduran's need	1 Consistency between the overall goal and the national development policy of Honduras	Honduran's need	The Project purpose matches the needs of the target group; The main cause of grade repeats in Honduras is poor achievement in Spanish and mathematics. Another need is to improve the quality of the teachers.
		2 Consistency with Japan's ODA policy	Development Policy	The Honduran Government has put high priority on human resource development in mathematics education for the children in a National Plan ("full coverage and completion of six years of primary education for all children of school age of both sexes, by 2015) and Honduran PRSP.
Priority	1 Appropriateness for Honduran problem solution	2 Selection of Project sites	Achievement record	Education is one of the most important sectors of JICA Honduras Office and ODA task force in Honduras.
		3 Dissemination effect to other provinces	Achievement record	The teachers' guidebooks and workbooks for children would be supportive for the class because there had not been such materials before.
Appropriateness of methods	4 Advantages of Japanese experience		Past achievement	Before beginning of the Project, a detailed qualitative and quantitative analysis based on the field survey had carried out. As the result, El Paraiso, Ocotepeque and Colón provinces were selected adequately, considering geographical and social environment, and the capacity for acceptance of the project. To adjust the number of participants of the PFC training, two departments were added namely Valle and Comayagua.
			Development Policy	The direct target group is the approximately 300 participants of PFC in the above-mentioned three provinces.
				The Secretariat of Education decided to apply the teacher's guidebooks and workbooks of the Project to pre-service and in-service teachers training and also to distribute them as official teaching materials all over the country from 2005.
				Over the past thirteen years the Japanese government had supported the training of teachers through the dispatch of a total of 60 JOCVs in mathematics before the Project. As result of their activities, some specific problems on education of Honduras were determined and teaching materials for considering those problems were developed.

[Handwritten signature]

[Handwritten mark]

	5 Cooperation with other donors	Other donors activities	Canada has decided to offer their fund to print and distribute the teacher's guidebooks and workbooks of the Project for the 1 st to 6 th grades all over the country 2005. Spain adopted the teaching strategy of the Project in teacher training programs for their Project.
--	---------------------------------	-------------------------	---

Effectiveness	Evaluation Item		Confirmation Items	Results
	Item	Sub-Item		
Achievement possibility of the Project purpose	Achievement possibility of the Project purpose	1 Current status of the indicators of the outputs	Current Achievement	The achievement of the Project purpose cannot be stated yet because of little objective data. However, the reputation of participant teachers is very good and the number of teachers using the teaching materials increased according to the result of the JOCVs' monitoring and PFC monitoring.
		2 Factors promoting or constraining to achievement of Project purpose	Current Achievement	The strike of teacher happened all over the country scale, since June to July 2004 about one month and some enforcement of the training was delayed.
Cause-effect relations	Cause-effect relations		Current Achievement	The Project outputs contribute to achieve the Project purpose effectively.

Efficiency	Evaluation Item		Confirmation Items	Results
	Item	Sub-Item		
Achievement of the outputs	Achievement of the outputs	Current status of the indicators of the outputs	Achievement record	The drafts of the teacher's guidebooks and workbooks for the 1 st to 6 th grades were elaborated earlier than the initial plan. The Project has trained 54 core trainers, those who working as trainers for in-service training including PFC.
		Correlation between the inputs and the achievement of the outputs	Achievement record	Because unexpected additional revise of the materials from the 1 st to 3 rd grades was required to the Project, one short-term expert and some local consultants were placed. In order to coordinate JOCVs' activities efficiently and effectively, one volunteer were dispatched additionally. Coordination and evaluation work is enormous for one expert therefore one local staff for the coordination job has been hired additionally.
Timing	Timing	Quantity, quality and timing of the Inputs	Achievement record	Both Japanese and Honduran inputs have been made efficiently mostly on good timing.

Cost	Cost-efficiency of outputs	Achievement record	To reduce the Project cost and transfer the know-how, local resources are utilized effectively to achieve the outputs.
------	----------------------------	--------------------	--

Impacts	Evaluation Item		Confirmation Items	Results
	Item	Sub-Item		
Prospects of the overall goal	Prospects of the overall goal based on the current situation of Inputs, Activities and Outputs		Development Policy	The Secretariat of Education decided to distribute teacher's guidebooks and workbooks developed by the Project all over the country from 2005 as official teaching materials. Furthermore it is decided to apply them to the national in-service and pre-service training system. Canada has offered to print and distribute the teacher's guidebooks and workbooks of the Project all over the country. In addition, the teaching materials and teaching method of the Project will be diffused to other departments by PFC and the Spanish Project.
	Indirect impact	Prospects of unexpected impact and measures to mitigate negative impact	Development Policy	Honduran side will elaborate the teacher's guidebooks and workbooks for the 7 th to 9 th grades by their own initiative. As Japan-Chile Partnership Program (JCPP), the regional seminar on mathematics education method including that of PROMETAM has been held once a year, and one Japanese Expert of the Project will give a presentation about PROMETAM method to educators of the regional program. There are some plans to spread the outputs of the Project to the several countries of Central and South America according to the high interest from these countries. Regional PROMETAM seminar was held Nov. 2003 by inviting the persons related JICA and their counterparts in order to introduce the effectiveness of the PROMETAM teaching method.

Sustainability	Evaluation Item		Confirmation Items	Results
	Item	Sub-Item		
Policy and institution aspect	Policy and Institutional sustainability		Development Policy	The Honduran policy of "full coverage and completion of six years of primary education for all children of school age of both sexes, by 2015," is maintained firmly and financial support will be given by common fund for EFA. The Secretariat of Education has decided to apply the teacher's guidebooks and workbooks of the Project to pre-service and in-service teacher training, and also to distribute them as official teaching materials all over the country from 2005

	<p>Organization and Financial aspect</p>	<p>Organizational Strength Staff assignment Operation and management capability Ownership</p>	<p>Development Policy</p>	<p>Cooperation between the Secretariat of Education and Universidad Pedagógica Nacional is strengthened. Distribution of the teacher's guidebooks and workbooks as teaching materials from 2005 was decided, however the budget for distribution after 2005 has not been decided yet.</p> <p>The Honduran side has decided to formulate the team for elaborating the teacher's guidebooks and workbooks for the 3rd cycle by their own initiative.</p> <p>The Honduran side has decided to utilize the teaching materials of the Project to the in-service and pre-service training at national level.</p> <p>The Project has developed the teaching materials in cooperation with C/P.</p> <p>The Project has trained 54 core trainers at department and district level.</p>
--	--	---	---------------------------	--

	Content
<p>Items to be considered</p>	<p>1 Monitoring 2 Other donors</p> <ul style="list-style-type: none"> · To monitor in-service training at national level beginning from 2005. · To watch other donors' activities supporting the achievement of EFA.

USA

[Handwritten signature]

[Handwritten mark]

PLAN OF OPERATION FOR PROMETAM

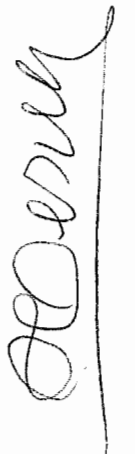
Annex: 4

	year 2003			2004			2005			2006			
	month	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(1)-1 To elaborate a draft of the teacher's guidebooks in mathematics for the teachers in the 1st and 2nd cycles of basic education													
(1)-2 To apply and prove the draft of the teacher's guidebooks in mathematics classes													
(1)-3 To monitor how the draft of the teacher's guidebooks is used													
(1)-4 To feed back monitoring results to the teacher's guidebooks													
(1)-5 To complete the teacher's guidebooks													
(2)-1 To elaborate a draft of the workbooks in mathematics for the children in the 1st and 2nd cycles of basic education													
(2)-2 To apply and prove the draft of the workbooks in mathematics classes													
(2)-3 To monitor how the draft of the workbooks is used													
(2)-4 To feed back monitoring results to the workbooks													
(2)-5 To complete the workbooks													
(3)-1 To plan the in-service teacher training of mathematics for teachers in the 1st and 2nd cycles of basic education													
(3)-2 With the help of the workbooks and the teacher's guidebooks, the in-service teacher training in mathematics will be carried in the "Programa de Formación Continua"													
(3)-3 To elaborate and apply the test of achievement and teaching method in mathematics for the teachers													
(3)-4 To elaborate a format for the analysis of mathematics classes													
(3)-5 To implement the evaluation of mathematics classes													
(3)-6 To elaborate and apply the achievement test in mathematics for the pupils in the 1st and 2nd cycles of basic education													
(4)-1 To transfer know how to the counterparts through those activities from (1) to (3) above mentioned													
(4)-2 To share the experiences about the in-service teacher training to the person concerned through seminars													

List of Experts

Name	Title of assignment	Period of assignment
Long-term experts 1 Mr. Takeshi Sekiya 2 Mr. Eiichi Kimura	Chief Advisor Mathematics Pedagogy	1 April 2003-30 June 2005 19 May 2003-26 March 2005
Short-term expert 1 Mr. Masami Isoda 2 Mr. Kozo Tsubota 3 Mr. Tadao Konishi 3 Ms. Shiori Abe	Training Improvement Teaching Materials Development Evaluation Analysis Teaching Materials Development	8 Nov. 2003-23 Nov.2003 8 Nov. 2003-23 Nov. 2003 6 March 2004-17 March 2004 20 April 2004-19 October 2004

CAN




PROMETAM JOCV Assignment in 2003-2006

Name	Group	2003												2004												2006		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
Dani	MINAGAWA 121	1	1																									
	UTSUNOMIYA 131	1	1																									
	KITANO 141	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	BABA 141	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	ASAKA 141	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	TASHIRO 151	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
Guinope	HIRAMA 152																											
	SHIMODA 161																											
	TADA 161																											
	ITO 141	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
Sonaguera	SATO 151																											
	NAKURA 152																											
	ITO 161																											
	NAKAYAMA 132	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	FUJIIIDA 141	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	UENO 151	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
Ocotepaque	ISHIZU 153																											
	TAMURA 161																											
	MOCHIZUKI 161																											
	NAITO 123																											
	MIZUNO 141	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	MIGITA 151	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
Torjillo	MOCHINAGA 152																											
	ISE 161																											
	OGURA 131	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	OHASHI 141	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
La Libertad	YAMAKI 151																											
	UMEDA 161																											
	YOSHIMURA 161																											
Nacaome	MIZUNO 141																											
	FUKAZAWA 152																											
	HAYASHI 153																											
	KAWANO 161																											
INICE	ISHIZUKA 132	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	SATO 160																											

Number of JOCV	12	12	12	14	13	15	15	15	14	14	15	15	15	15	13	13	14	22	21	21	21	21	21	21	21	20	16	16	16	15	15	15	15	15	12	12	12
----------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

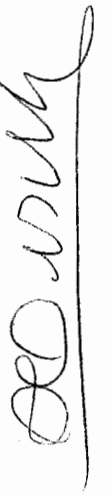
*Vertical line shows enforcement period of training course

[Handwritten signature]

[Handwritten mark]

Major Equipment Provided by JICA

Item	Main Specifications	Unit	Unit Price	Amount
Procurement from Japan				
1 Equipment of PC concerned				
PC	Windows XP, Japanese, Notebook	5	250,000	1,250,000
Printer	Valve jet, color	8	50,000	400,000
Printer	Laser Printer, Black and White	1	100,000	100,000
Scanner	A4	2	50,000	100,000
UPS		8	30,000	240,000
PC Card	256MB	3	60,000	180,000
PC Card Adapter		3	1,500	4,500
2 Equipment of PC concerned (Soft)				
Word, Excel	MSOffice (in Japanese)	5	30,000	150,000
Sub-Total				2,424,500
Local Procurement				
1 Vehicle				
Four-wheel drive car	4x4, Diesel, 3000cc, Air bag	2	3,800,000	7,600,000
2 Equipment of PC concerned				
PC	Windows XP, Spanish, 17inchi	3	250,000	750,000
3 Equipment of PC concerned (Soft)				
Editor	Page Maker (in Spanish)	3	150,000	450,000
Editor	Photoshop Elemento (in Spanish)	3	150,000	450,000
Soft(Power Point)	Power Point in Spanish	3	20,000	60,000
4 Presentation				
Projector	Sorter, Reduction and Expansion	1	600,000	600,000
5 Office Supplies				
Copy machine		2	700,000	1,400,000
FAX		7	100,000	700,000
6 Other				
Dynamo		1	400,000	400,000
Sub-Total				12,410,000
Total				14,834,500




List of Participants of the Training in Japan

Annex 8.

Name	School name	Post	Period
Mathematics Education			
1 Alvarado Di Donato, Roberto	Universidad Pedagógica Nacional Francisco Morazán	Coord. Area de Matemática del PFC	3 Feb.2004. - 24 Feb. 2004
2 Ramon Rosa Ramirez San Martin	Secretaría de Educación		
3 Carmen Yessenia Reyes Corea	Escuela Normal de Gracias, Lempira	Técnico Matemático de la S.E. Matemática	3 Feb.2004. - 24 Feb. 2004
Mathematics Education			
1 Rafael Eduardo Pacheco Cano	Universidad Pedagógica Nacional FM SPS	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
2 Angélica María Suazo S.	Universidad Pedagógica Nacional FM Tegcigalpa	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
3 José Gerardo Fuentes Z	Universidad Pedagógica Nacional FM Tegcigalpa	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
4 José Israel Enamorado	Escuela Normal Mixta Miguel Ángel Chinchilla	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
5 Manuel Rosales Andino	Escuela Normal Mixta Matilde Suazo Córdoba	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
6 Sara Lorena Jiménez	Escuela Normal Mixta España	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
7 Fredy G. Murillo Dominguez Tróchez	Escuela Normal de Occidente, Esperanza Intibucá	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
8 Elvia G. Murillo	Escuela Normal Mixta Litoral Atlántico, Tela	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
9 Manuel Antonio Dominguez Tróchez	Escuela Normal Mixta de Olancho, Juticalpa	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
10 Dioselina Cerrano Bentiez	Escuela Normal Mixta Justicia y Libertadk, GL	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
11 Rita Matilde Martinez	Escuela Normal Mixta Guillermo Suazo Córdoba	Docente de matemáticas	14 Jun 2004 - 6 July 2004
Teachers Training			
1 Julio César Navarro	Universidad Pedagógica Nacional FM	Director de PFC	14 Jun 2004 - 6 July 2004
2 José Hernán Montúfar Chinchilla	INICE-Secretaría de Educación	Director Efecutivo del INICE	14 Jun 2004 - 6 July 2004
3 Marden Mauricio Delecid Martinez	Centro Asociado de FID, La Esperanza, Intibucá	Director Centro Asoc. La Esperanza	14 Jun 2004 - 6 July 2004
Education Administration			
1 Rosa Margarita Pinto	Secretaría de Educación	Directora Deptal. Ocotepeque	14 Jun 2004 - 6 July 2004
2 Dilam Nuño	INICE Secretaría de Educacion	Directora Distrital Danlí	14 Jun 2004 - 6 July 2004
3 Zoila Herrera	Programa de Formación Continua	Coord Local PFC en Guinope	14 Jun 2004 - 6 July 2004

List of Teaching Materials Prepared by the Project

Name of the Country	Classification	Notes	Form
Honduras	Teaching Materials (Guidebooks in Spanish)	Teachers' Guidebooks from the 1 st grade to 3 rd grade based on Honduran textbook	Printed matter
	Teaching Materials (Guidebooks in Japanese)	same as mentioned above	Printed matter
	Teaching Materials (Workbooks in Spanish)	Teachers' Workbooks from the 1 st grade to 3 rd grade based on Honduran textbook	Printed matter
	Teaching Materials (Workbooks in Japanese)	same as mentioned above	Printed matter
	Teaching Materials (Guidebooks in Spanish)	Teachers' Guidebooks from the 1 st grade to 6 th grade based on Honduras New National Curriculum	CD, Printed matter
	Teaching Materials (Workbooks in Spanish)	Teachers' Workbooks from the 1 st grade to 6 th grade based on Honduras New National Curriculum	CD, Printed matter
	JOCV's Activities Manual in Japanese	Activities guidance of the Project	CD
	Test of abilities and leadership for teachers in Spanish	The test to use in before and after of the teacher training (for training from 1 st to 4 th grade)	
	Class analysis paper in Spanish	Class analysis applied the academic learning time method. Consist of activity analysis of teacher and students and supplement synthesis evaluation.	
	Class analysis paper in Japanese	same as mentioned above	
	Training Monitoring Paper in Spanish	Monitoring in the training and after the training	
	Training Monitoring Paper in Japanese	same as mentioned above	
	Achievement test for children in Spanish	Achievement test for children measure effect of the Project (for 2 nd grade)	

	Basics investigation questionnaire in Spanish including the choice of the project site	Make questionnaire about school education every object, teacher, children, patroness, Principal of school, Public health center, Police station and the Board of Education.
	Achievement test for teachers for investigation in Spanish	Achievement test used as investigation for teachers. Making questions range is an elementary school textbook.
	Achievement test for children for investigation in Spanish	Achievement test used as investigation for children. (for 2 nd and 4 th grade). Making questions range is an elementary school textbook.
	Result of investigations except achievement test in Spanish	Count of Result of achievement tests (Power Point)
	Result of baseline investigation	Count of Result of questionnaire (Power Point)
	Report of baseline investigation in Spanish	Informe de Investigación en el Sector de Educación – Nivel Primario -
		Printed matter

USA

List of Honduran Counterpart Personnel and Administrative Personnel

Role	Position	Name
Counterpart personnel		
Project Director	Vice Secretary for Pedagogy of the Secretariat of Education	Elia del Cid de Andrade
Project Sub director	Rector of Universidad Pedagógica Nacional	Ramón Ulises Salgado
Project Manager	The Executive Director of INICE	José Hernán Montúfar Chinchilla
	President of the Universidad Pedagógica Nacional "Francisco Morazán"	Ramón Ulises Salgado Peña
	Department of Curriculum Design	Daysi Coello de Morale
	Department of Educational Evaluation	Esmilda Montoya
	"Programa de Formación Continua" (UPN"FM")	Julio César Navarro
	Department Directions (El Paraíso, Ocotepeque, Colón, Valle and Comayagua)	personnel in charge of Departments
	District Directions (Danlí, Guinope, Sonaguera, Nueva Ocotepeque, Nacaome and La Libertad)	personnel in charge of Districts
	Regional Coordinator of "Programa de Formación Continua"	personnel in charge of Regions
	Other related fields mutually agreed upon as necessary	
Administrative personnel		
Secretary	1 secretary	
Driver	1 driver	
Other supporting staff	as necessary	

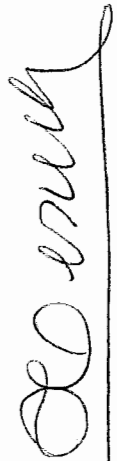
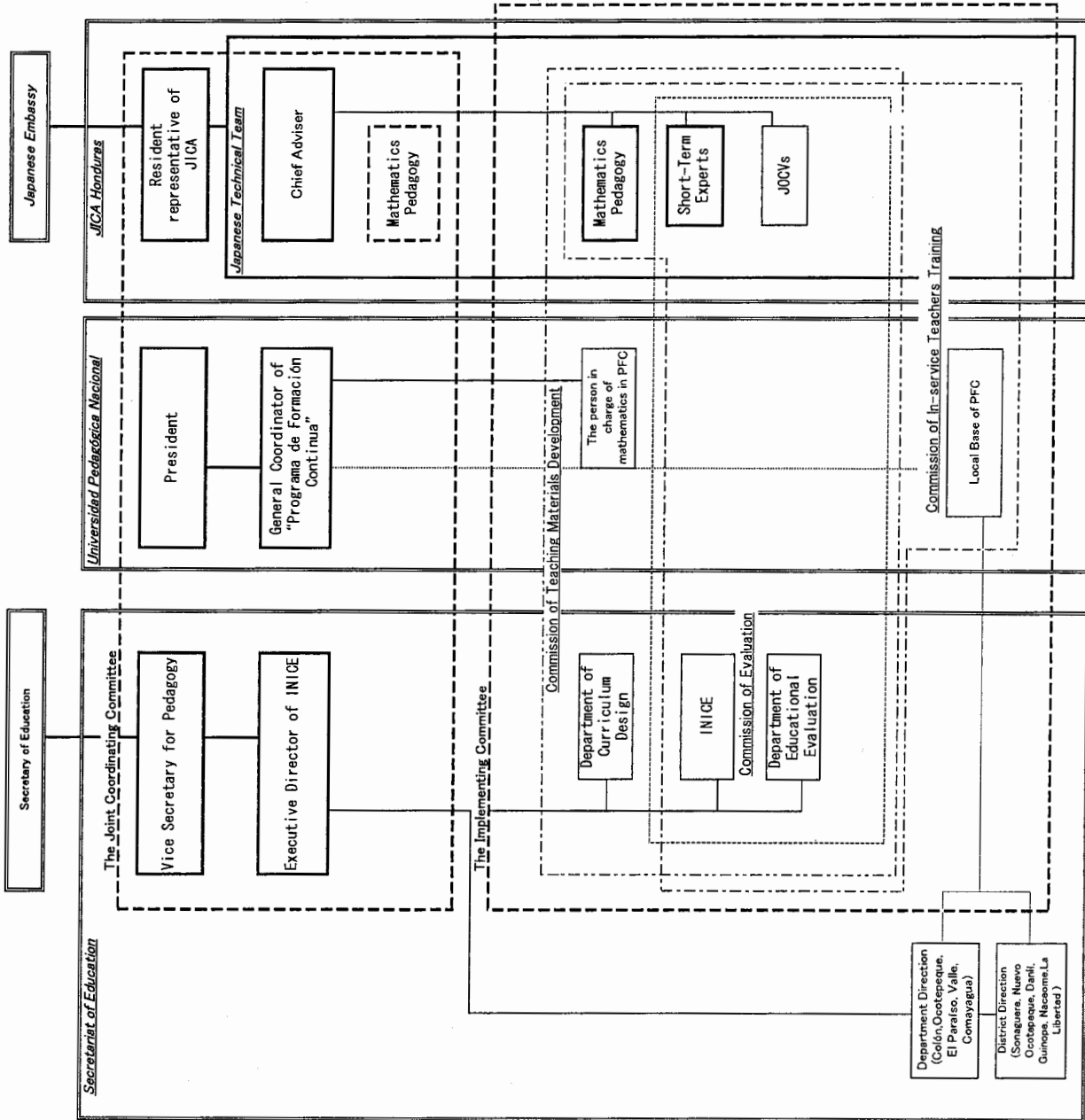



CHART OF PROJECT IMPLEMENTATION FOR PROMETAM



Handwritten signature

Handwritten initials



República de Honduras
Secretaría de Educación

Tegucigalpa, M.D.C., Septiembre 3 de 2004

Licenciado
Masazumi Ogawa
Jefe de Misión de Evaluación Intermedia
Presente

Estimado Lic. Ogawa:

Después de haber recibido la propuesta de elaboración de materiales del 7mo al 9no grado por parte de PROMETAM, hemos elaborado los documentos que adjuntamos.

Sin más por el momento, me despido de usted,

Atentamente,

Lic. Elia del Cid

Sub-secretaria Técnico Pedagógica
Secretaría de Educación

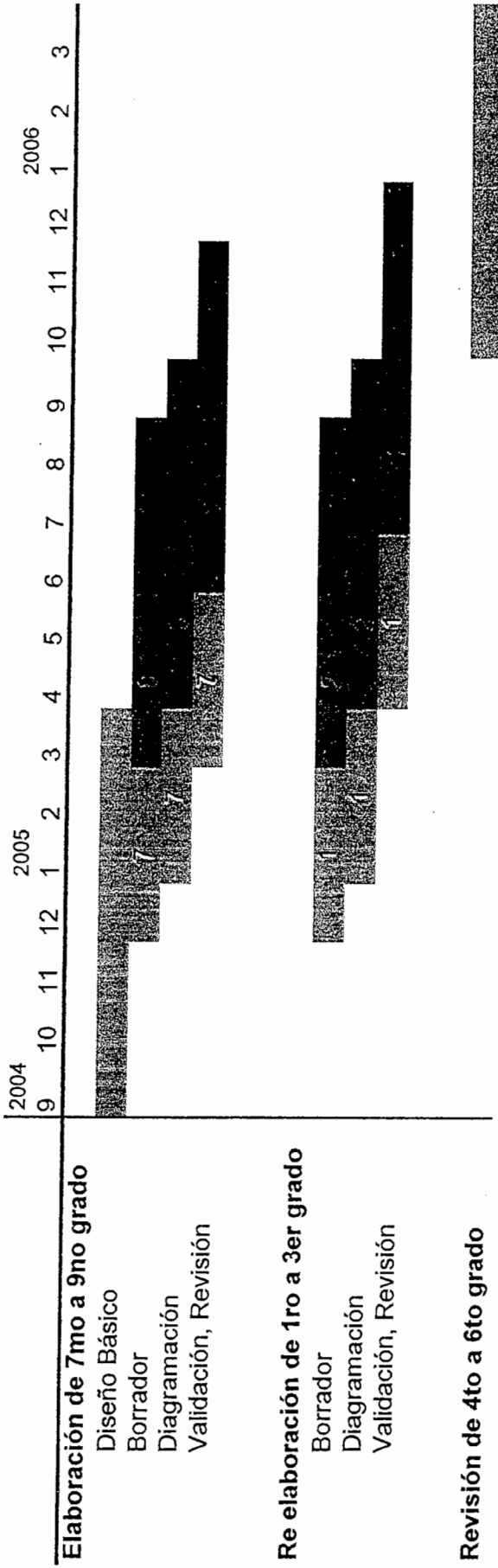
Se Adjunta: Calendario de Actividades
Nueva Inversión
Estructura de Equipo
Plan de uso de materiales y capacitación

200 DIAS DE CLASE CON CALIDAD POR NUESTROS NIÑOS, NIÑAS Y JOVENES

Teléfonos: +(504) 238-4325, 238-4260, 237-4192, 237-2035 • Fax: +(504) 222-8571
Correo Electrónico: info@se.gob.hn • Sitio Web: http://www.se.gob.hn

S

CALENDARIO DE ACTIVIDADES



Coruña

A

NUEVA INVERSION

HONDURAS

	Sueldo	Meses	Cant. De Personas	Costo
Secretaría de Educación y UPNFM				
Técnico Matemático	1,000	12	1	12,000
Técnico Matemático	1,700	12	1	20,400
Técnico Diagramador	800	12	2	19,200
Total				51,600

JAPON

	Costo
Libros referentes	2,000
Computadora (incluyendo softwares)	6,000
Gasto de imprenta de muestra	40,000
Total	48,000

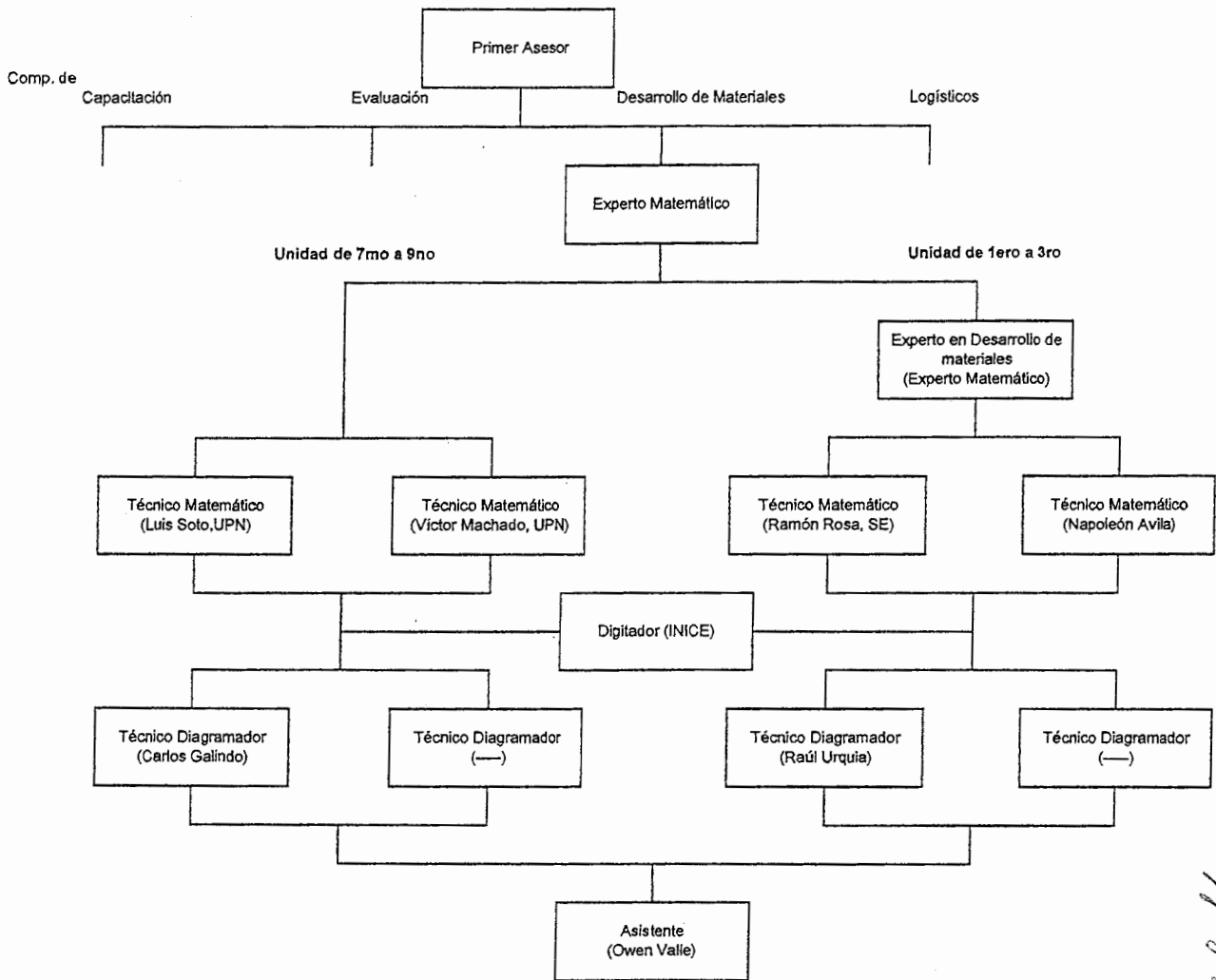
CA

[Handwritten signature]

[Handwritten mark]

[Handwritten mark]

ESTRUCTURA DE EQUIPO



CSM

[Handwritten signature]

[Handwritten mark]

[Handwritten mark]

Plan de Uso de los Materiales

Secretaría de Educación autorizará los materiales elaborados como textos nacionales.

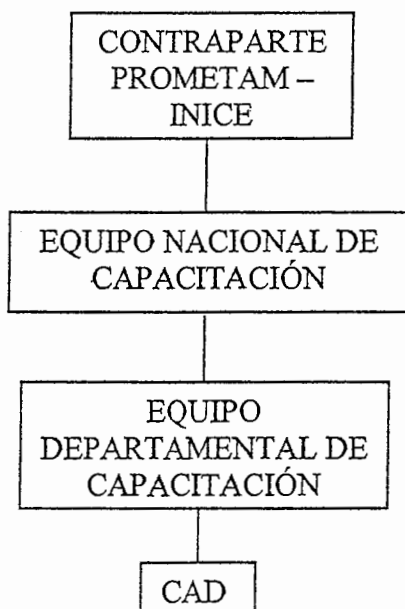
SE y Universidad Pedagógica Nacional Francisco Morazán encargarán la distribución de los materiales.

Plan de Capacitación

Selección de un equipo nacional de capacitación integrado por 3 miembros por departamento.

Seleccionar en cada departamento un equipo de matemáticos para desarrollar las capacitaciones en el departamento (preferiblemente egresados o alumnos del PFC/UPNFM).

Utilizar la estructura organizativa de los CAD para desarrollar las capacitaciones locales a los docentes en servicio.



Handwritten signature

Handwritten mark

Handwritten mark

2. 青年海外協力隊への質問票・回答結果

ホンジュラス国算数指導力向上プロジェクト中間評価 青年海外協力隊員の方への質問票 回答結果

注1) 各選択肢の冒頭に記載された数字は回答数を表します。

注2) 記載されたコメントは、実際の回答から主要部分を抜粋しています。

1 貴方が活動を行うに当たって、ホンジュラス側投入(研修関係者、執務室、機材、運営費)の時期、量、質についてお伺いします。

(1) 研修関係者(PFC コーディネーター、教育委員会担当者等)は、質(知識、経験、意欲)、時期、人数について活動に支障なく適切に配置、支援を受けましたか。また、回答の理由と生じた支障を具体的に空欄にお書きください。

[1] 申し分なく適切に配置され、支援を受けた。

[2] 適切に配置され、支援を受けた。

[3] 概ね適切に配置され、支援を受けた。

[] あまり適切に配置されず、支援を受けられなかった。

(申し分なく適切に配置され、支援を受けた)

・以前の任地では支援らしい支援はほとんど受けることが出来なかったが、現在では存分に受けることができていると思う。特に地区教育委員会の人たちには大変感謝している。

(適切に配置され、支援を受けた)

・PFC コーディネーターは日本への研修に参加しており、以前にも増して日本の教育の良い部分に触発されているようである。研修期間中も教室環境やクラスを受講生間の様子など細かいところまで気を配って、熱心に担当の任務を遂行している。彼女のおかげで講師のわれわれとしては満足のいく研修を実施することができていると感じている。教育委員長は忙しい方ようで、あまりわれわれの研修について関心を持っておられない状況である。研修場所の確保といったハード面の任務は行っているが、研修期間中は初日のみの来訪だった。

・地区教育長は常に活動や環境に最善の注意を払っている。PFC コーディネーターは、講習会の打合せや活動中に積極的かつ信頼して動いてくれる。

(概ね適切に配置され、支援を受けた)

・PFC コーディネーターは県教育長であるため多忙だが、こちらから働きかけたことに対しては真摯に対応してくれている。実務面では、教育委員会の第一学区長がもう一人のC/Pとしてスペイン語や講習についての支援・助言を行ってくれているのははじめ、教育委員会の先生方が多岐に亘り、快く協力・支援してくれている(任地には80年代から教育系の隊員が何人も入っていたため素地がある)。ただ、他業務と兼業ではなく専属のC/Pがいてくれると、ホンジュラス人に対する技術移転もより効率的に進み、活動にも幅を持たせることができると思う。

・PFC コーディネーターはお願いしたことはいつも快く引き受けてくれ、適切に対応してくれたが、教育委

員会の関心はもう一つである。講習会の見学にも一度しか来てもらえなかった。

・ホ国の一般的な状況(人件費不足、複合要因による良質の人材不足等)を考慮すると、概ね適切に支援を受けられたといえる。こちらの要望に納得してもらい困難は常にあるが、プロジェクト本部や専門家、調整員からの支援もあり、一定の理解を得られている。現教育長兼地区コーディネーターも、学生の出席不足による退学問題への対応や、授業観察への支援依頼の積み重ね等を通して、少しずつプロジェクトへの理解を深め、より能動的な支援をするようになった。ホ国の場合特に、組織の長が積極的か否かがその組織で活動する上で大きな要素となる。

(2) 貴方が活動する上での執務室、機材、運営費は適切に付与され、活動に支障はありませんでしたか。また、回答の理由と生じた支障を具体的に空欄にお書きください。

[] 申し分なく適切に付与された。

[4] 適切に付与された。

[2] 概ね適切に付与された。

[] あまり適切に付与されなかった。

(適切に付与された)

・教育委員会には電話やコピーがある。執務室にはプロジェクト経費で購入した鍵付きの棚、ノートパソコンがある。よって、活動に支障ない恵まれた環境である。
・隊員の人数分の机が約2ヶ月貰えずに少し不便を感じた。

(概ね適切に付与された)

・県教育委員会内に、他のプロジェクトや教育委員会職員と共有の執務室がある。前任者の代に、本人の確認・了承のないままに、現在の場所に机を移動され、仕事場と仕事道具(教材・教具用の本棚)とが離れているという状態が続いていたが、最近本棚も執務室へ移動した。講習会で配布するプリントなど、大学の講義に直接関わる分については教育委員会のコピー機は使用できないため、コピー屋で印刷し、受講生から印刷代を回収している。

・恒常的予算不足からホ国側からの物質的支援はもともとあまり期待できない。実際に、必要な物品のほとんどは隊員支援経費とプロジェクト予算から支出されている。ただし、配属先にある機材の使用を断られたことはなく、また地域の教育情報資料(年度日程、教員に対する他の研修資料、使用されている学校教材等)の提供が活動の一助となっている。教育委員会内の活動場所と学校を回る際の移動手段についても、できる範囲内での支援は得られている。

2 貴方が活動を行うに当たって、プロジェクト側との連携状況についてお伺いします。

(1) 専門家との連携について

プロジェクトで活動する上で、専門家との連携(情報交換、技術指導等)は効果的に図られていましたか。また、回答の理由を空欄にお書きください。

[1] 非常に効果的に行われていた。

[2] かなり効果的に行われていた。

[2] 概ね効果的に行われていた。

[1] あまり効果的に行われていなかった。

[] 効果的に行われていなかった。

(非常に効果的に行われていた)

・教材作成・算数指導の専門家には、講習会前の準備段階・講習会開催中共に、算数指導技術や教材の意図・使用法・注意点などについてメールや電話を通して支援・助言を得ることができて、とても心強く、ありがたかった。

(かなり効果的に行われていた)

・メールベースでの情報交換はもとより、研修期間中は足を運んで頂き、適切な助言を各協力隊員に与えて下さっている。また、専門家が現地講師向けの授業を行う際は事前に連絡があるので、専門家の授業を見学する機会が与えられていることで、個々の指導技術を見直し、向上する機会にもなっている。

(概ね効果的に行われていた)

・専門家間での考え方や意見の違いが多少あり、それぞれからの情報で少々混乱することはあったが、隊員からの質問には意見を調整して対処してくれている。

・任地が首都から遠い場合、日常的な情報交換が滞りがちで、技術支援等も直接受ける機会が少なくなる。現在メールベースで情報交換できる環境が整っているが、ホ国の停電やメールサーバーの頻繁な故障状況により、確実な情報交換手段とは言い難い。また、技術指導に関しては研修会場に足を運んでもらう以外に方法がないので、首都で多忙な専門家に頼むことは難しい。現在、シニア隊員が各サイトへ足を運び連携を深めるよう努力しているが、専門家だけでなくプロジェクトの全構成員が連携を図るためのコミュニケーション方法の確立は、通信・交通網整備がされていない国で全国展開されているプロジェクトの今後の課題である。

(あまり効果的に行われていなかった)

・メール等のやりとりは頻繁に行われていたが、肝心なところで情報が不足し、活動を行う中で支障をきたす場面も見られた。隊員との意思の疎通はうまく図られていなかったと思う。

(2) プロジェクト目標の共有度について

PROMETAM のプロジェクト目標である「指導書等の活用により、プロジェクト対象県における初等教育の第1課程と第2課程の現職教員の算数指導力を向上する」は専門家及び協力隊員間で十分に共有され、活動が行われていましたか。

[] 十分に共有されていた。

[1] かなり共有されていた。

[4] 概ね共有されていた。

[1] あまり共有されていなかった。

[] 十分に共有されていなかった。

(かなり共有されていた)

・隊員の人数がとて多いため、正直認識に個人差があるのは否めないと思うが、かなり共有されていると思う。

(概ね共有されていた)

・研修前には適切な時期に会議をもち、互いの共通理解を図る機会を得ている。

・一部の隊員は、プロジェクト隊員であるという自覚が残念ながら持っていない。一人一人協力隊への参加動機が違うので、難しいのかもしれないが、プロジェクト隊員になった以上、その活動の自覚と責任を持ってほしいと思う。

・何が目標であるのか、それぞれ専門家からの意見が違ってよく分からなかった。「子どもが動く授業」「落第をさせない」と2つを聞いた時、その2つではかなり隊員の動き方が違ってくると思えたからだ。指導書を使って授業(講習)することは概ね共有されていた。

・プロジェクトがそのような目標で展開されていると知っていることと、その実現に必要な活動を理解しより効果的に進めようとするのは違う。その意味で、目標を知ってはいたもののその実現に必要なことを理解してはいない状況があった。ひとつには、派遣されてくる隊員がプロジェクト形成の過程を経ずにその構成員となることによる理解不足、それに伴い専門家と、または活動期間の異なる隊員との認識相違がある。また、算数指導力そのものがかなり幅のあるもので各人の理解が異なること、自然そこに必要と思われる活動も各人で違う。それを乗り越えて共有できるところまでは、残念ながらたどり着いていない。

(あまり共有されていなかった)

・何をもち現職教員の算数指導力の向上とみなすか・・・という根本的な指針の違いから、動かしがたいお互いの「ずれ」があった。結局打開策を見出せないまま、お互い歩み寄ることもできないまま進んでいるような気がしてならない。本当に子どもたちに還元することが出来ているのかを測ることは非常に難しいと思う。

3 活動内容について

(a)PROMETAM の場合、配属前から教員研修については内容が明確に定められており、特定の時期には特定の活動を行うことになっていました。このように、事前に一部でも活動内容が明確に定められていたことについて、どのように思いますか？

また、回答の理由を空欄にお書きください。

[3] 活動内容が明確に定められていたことで、活動しやすかった。

[1] 活動内容が限定されていて、活動しにくかった。

(活動内容が明確に定められていたことで、活動しやすかった)

・赴任してすぐ3年生の講習会が始まったため、その時期に先輩隊員の活動の仕方を観察しながら次の講習会開始時期までに自分にとって何を知り、学ぶことが必要か考えて、目的意識を持ちながら活動に取り組むことができた。

・研修受講者はわれわれを「講師」と見なして接してくれている。そのおかげで学校観察をする際に、受講生から頻繁に算数分野の質問を受ける。また、算数分野に主眼をおいて助言することができるので、一分

野に集中した協力活動ができています。

・2年弱という短い活動期間の中でも、とても充実した活動をする事ができたと思えるのではないかと。また決められた活動時期以外は、自分次第で他の活動も可能なので、活動しにくいということはない。

(活動内容が限定されていて、活動しにくかった)

・本当にしたいと思っていた子どもたちへの算数の授業が制限された。それではいったい何をしたいのかわからなくなり、ジレンマに陥った。たくさんの時間の中で、いったいどう動いていいかわからなくなり悩んだ時期もあった。結局は自分なりに妥協案を見つけ活動してきた。プロジェクトに協力隊員を導入することは協力隊の意味合いからしても、非常に難しいと思った。

(その他)

・どちらともいえません。活動内容がイメージしていたのと違っていただけです。駒ヶ根研修時には、このような活動とは思いませんでした。

・どちらでもない。活動が決まっていれば決まっていたなりの、決まっていなければ決まっていなりのやり方があると思うので、どちらが良いとはいえない。

(b)プロジェクトの途中から、研修効果の評価モニタリングを隊員が担当しないこととなりました。評価を担当しなくなって以後のプロジェクトの研修実施期間以外の活動は有意義なものでしたか。その回答の理由を下記空欄1にお書きください。また、研修以外の具体的な活動内容を下記空欄2にお書きください。

- a) 大変有意義なものであった。
- b) 有意義なものであった。[4]
- c) どちらともいえない。
- d) あまり有意義なものではなかった。
- e) 有意義なものではなかった。

空欄1(理由)

(b)

・講習会を充実させるために必要な準備をじっくりとすることができた。
・評価モニタリングは協力隊員の義務ではなくなったが、プロジェクト評価の邪魔にならない範囲で授業観察を継続している。ある地域に限定したモニタリング、また優秀な受講生を見つけるための継続したモニタリングなど、今までは不可能であった様々な形態をとりながら自己の研修授業を振り返ることができている。
・以前の評価モニタリングは自分の見たい観点から授業観察することができなかったが、今はそれが可能だし、対象の授業も自分で選択することができるので、幅のある活動ができるようになった。
・ゆっくりと自分の視点で学校を回ることができた。いろいろな先生と「日本人」として親しくできた。教育委員会の人が担当している学校へ連れて行ってもらって、いろいろな事情を詳しく聞ける。

(c)

モニタリングはあまりしていないので何ともいえないが、モニタリングの仕方自体に疑問を感じていたためな

くなってよかったと思う。

(その他)

・変更の前後で活動に大きな差はない。ただし、研修の大きな柱である授業観察がより有意義になった。つまり、研修以外の活動が増えるという有意義さではなく、研修自体が充実するという有意義さである。授業観察が研修会場の延長として講師の明確な方針の下に進められることは、指導力の向上を具体的に実感する、または実践として展開する上でとても大切なことであり、日本のように学校現場で日常的研修や指導が行われていないホ国では貴重な活動である。

空欄2(活動内容)

- ・ギアを読み込み、スペイン語(算数用語・教授用語)を覚えた。
- ・授業観察を通し、ホ国の授業の流れや指導法の問題点・現状把握に努めた。
- ・PROMETAMの指導書と、現行の教科書を読み、比較・研究した。
- ・事前研修会を行った。
- ・今学期の講習会の教材作成・授業準備を行った。
- ・学校訪問時に授業観察を行い、意見交換をしている。
- ・作業帳の使い方の指導。
- ・近隣の高校生のボランティアを募り、彼らと共に小学校低学年の算数の苦手な子どもを対象に補習を行っている。指導にあたりながら子どものつまづく場面を把握し、それを研修内容の充実に活かすよう努めている。
- ・小学校や文化センターでの日本文化紹介(折り紙教室、算数教室、工作、コンサート等)。
- ・小さな村の婦人部への算数指導。

4 求められる成果について

PROMETAM は技術協力プロジェクトとして成果が求められています。あなたが隊員として活動する上で、活動の成果が求められることにプレッシャーを感じたことはありますか。また、そのプレッシャーをどう感じましたか。

- [] プレッシャーを感じ、つらかった。
- [2] プレッシャーを感じたものの、逆に励みになった。
- [3] どちらともいえない。
- [1] あまりプレッシャーを感じなかった。

(プレッシャーを感じたものの、逆に励みになった)

・単なる講習会ではなく、受講者が大学卒業資格を取得するための研修ということもあり、それにふさわしいだけの研修をしなければならないという気持ちから、スペイン語の学習にも、講習内容の準備・受講生への指導にも自然と熱が入った。

・講習会が始めるまで講習会中は、とてもプレッシャーを感じた。けれど、講習生が熱心に授業を受けてくれ、この講習会でたくさんのものを学ぶことができ良かったという反応があった時に素直に嬉しかったし、自分が行っていることの意味を感じることができた。授業観察に行ったときも、講習会の大きな効果を知ることができて今後の活動の励みになった。さらに、良い講習会をしたいと思っている。

(どちらともいえない)

・協力隊員として、また受講生にとっての一講師として研修に関わり始めて日が浅く、受講生が学んだことをそれぞれの授業でどれだけ還元できているかをまだ十分に把握できていないのでどちらともいえない。現場での様子を見て、あまり還元できてないようであればこれから研修を続けるうえでプレッシャーを感じていこうと考えている。

・成果ということをあまり身近に感じていない。教育効果はすぐには見えないものである。

・プロジェクト成果が求められることがプレッシャーだったのではなく、大学の講師として現職の教員に指導をすることがプレッシャーであった。隊員活動は日本のために行っているのではないので、ホンジュラス人にとって、より良いものを目指した結果がプロジェクト成果であるならばそれで良いと思う。最も辛かったのは、まだ現地の事情も言葉もままならず、教員経験もなく指導法指導に自信のない中で、大学講師としての責任を果たさねばならなかったことである。

(あまりプレッシャーを感じなかった)

何をもって成果とするかだと思う。求めるもの(成果とするもの)を自分自身の中にしっかりともっていたため、それによるプレッシャーは感じたことはない。

(5) 隊員の身分について

[] プレッシャーを感じ、つらかった。・・・(A)

[2] プレッシャーを感じたものの、逆に励みになった。

[3] どちらともいえない。

[1] あまりプレッシャーを感じなかった。

※(A)を選択した方へ

プロジェクトの活動として、現職教員を対象とした教員研修以外の活動を行うとしたら、どのような立場・内容の活動を希望しますか。自由に書いて下さい。

(どちらともいえない)

現職教員研修をするにしても、実際に子どもに対して彼らとともに指導法を実践する場を確保すると良い(プロジェクトとしてのパイロット校を設けるなど)。また、現在教育委員会属先のPFC講師という中途半端さが時に隊員の配属先に対する所属意識を薄める要因となっているので、PFC講師であるなら教員養成校に、教育委員会に配属するなら指導主事としての活動をより明確に打ち出す必要があると思う。

5 PROMETAM 配属の隊員として派遣されるにあたり、派遣前にこのような研修があればより効果的な活動ができた、というご意見がございましたら教えて下さい。

例) 教員研修の実習

・ホ国の算数指導の現状・問題点、小学校や現職教員の現状について知る。

・プロジェクト隊員としての心構えについて(長所・短所、活動の際の留意点など)。

・教員経験がない人にとっては、このプロジェクトはかなりのプレッシャーになると思う。授業の基本的な流し方等を日本語で研修する機会があると良いのではないかな。

- ・小学校での教育実習。
- ・ホ国派遣後に教員養成校で実習。

6 プロジェクトの隊員で良かったと感じたことや、プロジェクトの活動のプラス評価できる点がございましたら教えて下さい。

- ・自分が悩んだ時、迷った時に(技術面等で)、同プロジェクト内に相談できる隊員がいる。
- ・他の任地の講習会で失敗した点・うまくいった点等を、自分の講習会に活かすことができる。
- ・プロジェクトとして必ず隊員がとぎれなく、任期が重なって派遣されることで、情報の蓄積がされやすく、活動の成果を地道に積み重ねることができる。
- ・隊員同士だけでなく、専門家にも相談しながら活動できるので、受講生の質問などにも自信をもって答えることができるし、自分自身の勉強にもなる。
- ・現地の教員との関係づくりが他プロジェクトや他職種の活動より比較的容易であるのではないかと感じている。目的が明確なプロジェクト隊員である日本人を現地の教員は「教育大学の授業を担当する一科目の一講師」として試しているため、部外者(外国人)への抵抗感はあまりない様子である。そういう面で事前に活動のコンポーネントが示されていることはプロジェクト活動を進めるにあたりプラス面にあたるのではないかと考える。
- ・講習会の進め方、活動の仕方について、色々な意見を共有することができるので、参考になったし刺激にもなった。任地でも、グループであることで、できることの幅が広がってくる。
- ・国際協力に関わる人々と仕事をする中で多様な考え方・方法論を学べた。また、多くのホンジュラス・日本人と算数教育・初等教育について意見交換することで、自身の勉強になった。

7 プロジェクトをより効果的に行うに当たって提言や意見がございましたら教えて下さい。

- ・隊員間の情報の伝達・共有・共通理解がうまくいくと、より効果的な活動ができると思う。(人数が多く、それぞれが自分なりの考え方やこだわりを持っているので、互いが相手の考えを思いやり、尊重しつつ、歩み寄ろうとしない限り、プロジェクトの活動は円滑には進まない。その反面それができれば、個人の隊員ではできないような大きな成果を得ることができると思う。)
- ・隊員一人一人が、プロジェクトの一員であることに、もっと誇りをもって良いと思う。プロジェクトには、個人活動ではできない大きな効果や成果がある。その一員として隊員はそれぞれにプレッシャーを感じながら頑張っている。その頑張りをもっと認めてあげてほしい。隊員同士も、頑張っていることをお互い賞賛しあって認めていける雰囲気を作ることが必要である。
- ・やはり日本人は所詮外国人であるので、ホンジュラス人の中できちんと授業ができる先生を見つけて、その人を中心に地域でセミナーを行う組織を作ってはどうかと思います。日本人だからできるんだと言われないように、ホンジュラス人もやれば出来るということを身近に感じてもらうことが大切だと思います。
- ・隊員、専門家、シニア等々の意思の疎通、指針の共有化。